

【専門分野】

<b>授業科目名</b>		<b>看護学概論</b>			
<b>単位・時間数</b>	1 単位 30 時間	<b>開講年次</b>	1 年次前期	<b>DP</b>	1・2・3・4・5
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師		
<b>目的</b>	<p>看護の基本となる概念を理解し、看護の本質や役割、機能を、保健・医療・福祉の広い視野でとらえ、看護活動が科学的根拠に基づき倫理的に実践することの重要性を学ぶ。また、看護の基礎となる主要概念である「人間」「健康」「環境」「看護」について探究する。そして、看護の対象である人間に対する見方や考え方を学び、対象を多面的に捉える必要性や、人間の生命を尊重し、看護師の責務について考えることで、以後の看護学学習への動機づけとする。</p>				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護を構成する人間、健康、環境、看護の概念について考え、看護の本質や看護の役割と機能を学び、看護を提供するしくみや方法や看護活動の概要を理解できる。</li> <li>2. 保健・医療・福祉の場における看護の役割を理解できる。</li> <li>3. 人間を成長発達や生活者、統合体や環境との相互作用の側面から多面的に理解できる。</li> <li>4. 人間を尊重し、看護倫理に基づいた専門職業人としての役割、責任を考えることができる。</li> </ol>				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>	
1	看護の概念			講義	
2	看護の本質、変遷			講義	
3	看護の役割と機能			講義	
4・5	看護の対象の理解（人間とは）			講義	
6	看護の対象の理解 看護理論、理論			講義	
7・9	看護と健康（健康とは）			講義	
9・10	看護と環境（環境とは）			講義	
10	看護における倫理			講義	
11	看護実践における倫理的問題への取り組み			講義	
12	看護職と継続教育、キャリア支援			講義	
13	看護の提供のしくみ			講義	
14	看護の活動の場			講義	
15	看護を考え、表現する			講義	
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 看護覚え書き					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験 80 点、レポート 20 点を合わせて 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。					

<b>授業科目名</b>	<b>看護基本技術</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 30 時間	<b>開講時期</b>	1 年次前期	<b>DP</b>	1・3
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師		
<b>目的</b>	看護技術の概念や特徴について理解し、対象者の健康生活を支える技術、科学的根拠に基づく看護技術の重要性について学ぶ。また、すべての看護技術の基礎となる看護技術である、対人理解や人間関係構築の土台となるコミュニケーションの意義や特徴を理解し、効果的なコミュニケーション技法を学ぶ。また、患者の安全を確保する基本である、感染防止技術を学び、感染の成立や感染経路、予防対策について学ぶ。				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護技術の概念や看護における安全の概念を理解できる。</li> <li>2. 科学的根拠やケアリングに基づく看護技術の重要性を理解できる。</li> <li>3. 感染のメカニズムと感染予防の意義・目的を理解し、感染予防対策が実施できる。</li> <li>4. 看護におけるコミュニケーション理論や技術を理解し、対人関係形成のために必要なコミュニケーション技術を身につけることができる。</li> </ol>				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>	
1	看護技術とは 知識・技術・態度について			講義	
2	看護における安全・安楽の概念			講義	
3	感染予防の基礎			講義	
4	感染予防対策の技術			講義	
5	手洗いとスタンダードプリコーション			演習	
6	スタンダードプリコーションの実際			演習	
7	滅菌と消毒、無菌操作			講義・演習	
8	無菌操作の実際			演習	
9	看護・医療コミュニケーションの概念、意義、目的			講義	
10	関係構築のためのコミュニケーションの基本			講義	
11	コミュニケーション演習			演習	
12	効果的なコミュニケーション、アサーティブコミュニケーション			講義	
13	コミュニケーション演習			演習	
14	プロセスレコードとは			講義	
15	患者-看護師関係におけるコミュニケーション			講義	
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 看護がみえる Vol.1					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験 80 点、レポート 20 点を合わせて 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。					

<b>授業科目名</b>	<b>日常生活援助技術 I</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 30 時間	<b>開講年次</b>	1 年次前期	<b>DP</b>	1・3・5
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師		
<b>目的</b>	人間と環境の相互作用を理解し、対象にとっての環境の意味を考え、安全で安楽な環境を調整方法について学ぶ。また、人間にとっての活動の意義や休息の意義について理解し、活動と休息のバランスを取りながら、安全で安楽な生活を送るために必要な生活を支える技術について学ぶ。看護の対象と看護職双方が、安全で安楽な体位で、効率的で効果的に看護ケアを実践するための基礎的知識や方法を学ぶ。				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境が人間に与える影響を理解でき、病床環境を整えるための環境調整技術を身につけることができる。</li> <li>2. 基本姿勢や人間工学的視点でのボディメカニクスの原理について理解できる。</li> <li>3. さまざまな体位を理解し、安全で安楽な移動・移送援助技術を理解し、身につけることができる。</li> <li>4. 患者役を通して、患者の気持ちを推察でき、援助技術へつなげることができる。</li> </ol>				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>	
1	環境と看護			講義	
2	環境調整技術 病院・病室内の環境			講義	
3	環境調整技術、ベッドメイキング			講義	
4	ベッドメイキングの実際			演習	
5	病床環境を整える技術 リネンチェンジ			講義・演習	
6	リネンチェンジの実際			演習	
7	活動の意義、目的			講義	
8	ボディメカニクスとは 看護における力学の基礎			講義	
9	ボディメカニクスにもとづいた移動の援助 体位変換			演習	
10	体位変換の実際			演習	
11	体位変換の実際			演習	
12	移乗・移送の援助技術			講義・演習	
13	移乗・移送の実際			演習	
14	安全、安楽な姿勢の追求 ポジショニング			講義・演習	
15	睡眠・休息の援助			講義	
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術Ⅱ 看護がみえる Vol.1、Vol.2、Vol.3					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験 50 点、実技試験 50 点を合わせて 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。					

<b>授業科目名</b>	<b>日常生活援助技術Ⅱ</b>			
<b>単位・時間数</b>	1 単位 30 時間	<b>開講年次</b>	1 年次前期	<b>DP</b> 1・2・3・5
<b>担当講師</b>				
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師	
<b>目的</b>	人間にとって生命を維持するため必要な生活行動の基本である、「衣食住」における、「清潔」と「衣生活」の意義と重要性を理解し、清潔の援助方法と衣生活の援助方法を学ぶ。			
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の日常生活における「清潔」と「衣生活」の意義を理解できる。</li> <li>2. 清潔援助がもたらす効果と身体への影響が理解でき、安全で安楽な方法を理解し、身体各部への清潔援助技術を身につけることができる。</li> <li>3. 衣生活に関するアセスメントの視点を理解でき、衣生活への援助技術を身につけることができる。</li> <li>4. 患者役を通して、患者の気持ちを推察でき、援助技術へつなげることができる。</li> </ol>			
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>
1	清潔の援助の基礎知識			講義
2	清潔の援助の基礎 整容、入浴、清拭			講義
3・4	清拭の実際			演習
5	清潔援助の基礎 洗髪、手浴、足浴			講義
6・7	臥床患者の洗髪の実際、整容の実際			演習
8	清潔援助の基礎 陰部洗浄			講義
9	陰部洗浄の実際			演習
10	衣生活への援助の基礎			講義
11	寝衣交換の実際			講義・演習
12・13	臥床患者の全身清拭と寝衣交換			演習
14	足浴、手浴の実際			演習
15	口腔ケアの基礎 まとめ			講義
<b>教科書</b>				
系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 看護がみえる Vol.1、Vol.2				
<b>評価方法・基準</b>				
筆記試験 50 点、実技試験 50 点を合わせて 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。				

<b>授業科目名</b>	<b>日常生活援助技術Ⅲ</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 30 時間	<b>開講年次</b>	1 年次前期	<b>DP</b>	1・2・3・5
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師		
<b>目的</b>	人間にとって生理的欲求である「食事」と「排泄」について、その意義を考え、対象が健康的で快適な生活をおくるための援助方法を学ぶ。				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間にとって日常生活における「食事」と「排泄」の意義を考えることができる。</li> <li>2. 栄養や食事についてのアセスメントの視点が理解でき、食事の援助を、対象の生活習慣や自立の促進を目指した援助方法を考え、実施できる。</li> <li>3. 排泄についてのアセスメントの視点を理解でき、対象の尊厳を守り、対象を尊重した排泄援助方法について考え、実施できる。</li> <li>4. 患者役を通して、患者の気持ちを推察でき、援助技術へつなげることができる。</li> </ol>				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>	
1	食事援助の基礎知識			講義	
2	食事援助の基礎、食事の援助について考える			講義	
3	食事援助を考える			GW	
4	食事援助技術の実際、リフレクション			演習	
5	摂食・嚥下訓練			演習	
6	非経口的栄養摂取の援助			講義	
7	経管栄養法の実際			講義	
8	排泄の援助技術の基礎知識 排尿			演習	
9	排泄の援助技術の基礎知識 排便			講義	
10	床上排泄、尿器、便器、おむつの援助方法			講義	
11	床上排泄の実際			講義・演習	
12	床上排泄の実際			演習	
13	排尿困難時の援助 導尿			講義、演習	
14	排便困難時の援助 浣腸、摘便			講義、演習	
15	浣腸の実際			演習	
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 看護がみえる Vol.1、Vol.2					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験 50 点、実技試験 50 点を合わせて 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。					

<b>授業科目名</b>	フィジカルアセスメント				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 30 時間	<b>開講年次</b>	1 年次前期	<b>DP</b>	2・3・5
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師		
<b>目的</b>	看護におけるヘルスアセスメントは看護実践の基盤として、科学的根拠や倫理的配慮のもと行う必要がある。気習の基礎分野の知識を想起し、活用しながらヘルスアセスメントおよびフィジカルアセスメントの目的や方法を理解し、対象の健康状態を把握するために必要な観察技術について学び、修得する。				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象の身体の状態を把握するフィジカルアセスメントの目的と意義を理解でき、フィジカルアセスメントの基礎知識・技術を身につけることができる。</li> <li>2. 頭部から足先までの全身を系統的に観察する視点と方法を理解できる。</li> <li>3. バイタルサイン測定を正確で適切な方法で実施できる。</li> <li>4. アセスメントの結果を、記録や報告することの意味を理解でき、結果を正しく、記録できる。</li> </ol>				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>	
1	ヘルスアセスメントとは			講義	
2	フィジカルアセスメントに必要な技術 全体の印象の把握、健康歴の聴取			講義	
3	フィジカルアセスメント①聴診・打診・触診・視診、計測			講義	
4	身体的状態のアセスメント演習			演習	
5	フィジカルアセスメント バイタルサインとは			講義	
6	バイタルサイン②血圧、脈拍、体温			講義	
7	バイタルサイン③呼吸、意識			講義	
8・9	バイタルサイン測定の実際			演習	
10	系統的フィジカルアセスメント①呼吸			演習	
11	系統的フィジカルアセスメント②循環器			講義	
12	系統的フィジカルアセスメント③腹部、胸部			講義	
13	系統的フィジカルアセスメント④筋骨格、神経系			講義	
14	系統的フィジカルアセスメントの実際（事例）			講義	
15	観察・記録・報告の意味			演習 講義	
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 看護がみえる Vol.3					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験 50 点、実技試験 50 点を合わせて 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。					

<b>授業科目名</b>	<b>看護過程</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 30 時間	<b>開講年次</b>	1 年次後期	<b>DP</b>	2・3
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師		
<b>目的</b>	対象の健康問題を判断し、解決するための基本的思考過程である問題解決思考に基づいた看護過程のプロセスを理解する。				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程の基盤となる考え方や、看護過程の構成要素を、事例を用いながら理解できる。</li> <li>2. 事例患者の全体像や看護上の問題を導き出す過程が理解できる。</li> <li>3. 看護上の問題を解決に向けての看護計画が立案できる。</li> <li>4. 看護実践における看護記録・報告の意義と方法や管理方法、倫理的配慮について理解できる。</li> </ol>				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>	
1	看護過程の構成要素、基盤となる考え方			講義	
2	看護過程の各段階 情報収集			講義	
3	看護過程の各段階 情報収集、情報の解釈、分析			講義	
4・5・6	事例患者の看護過程の展開 演習①			演習	
7	中間報告会				
8	看護過程の展開 全体像の明確化、看護上の問題～計画立案			講義	
9・10・11	事例患者の看護過程の展開 演習②			演習	
12	中間報告会②				
13	看護過程の評価、看護記録			講義	
14・15	最終発表会				
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 看護がみえる Vol.4					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験 80 点、レポート 20 点を合わせて 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。					

<b>授業科目名</b>	<b>診療の補助技術 I</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 30 時間	<b>開講年次</b>	1 年次後期	<b>DP</b>	1・3・5
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師		
<b>目的</b>	薬物療法における看護師の役割を認識し、対象の健康の保持増進・回復に向けた援助について必要な知識・技術・態度を学ぶ。対象に与える影響を考えながら、ひとつ一つの行為を振り返ることを行う姿勢を身につける。				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物療法における看護師の役割と看護の原則について理解できる。</li> <li>2. 各種与薬法の特徴を理解し、安全でかつ安楽に実施するための基礎的知識・技術を身につけることができる。</li> <li>3. 輸血管理についての基礎的知識が理解できる。</li> <li>4. 薬物療法が、対象の心身に与える影響を考えることができる。</li> </ol>				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>	
1	薬物療法について、与薬の基礎知識			講義	
2	経皮、経口、吸入、直腸内			講義	
3・4	経皮、経口、吸入、直腸内与薬の実際			演習	
5	注射法の基礎 皮下・皮内・筋肉注射			講義	
6	注射法の基礎 実際①注射器の準備（無菌操作含む）			講義	
7	注射法の基礎 実際②アンプル、バイアルの取り扱い			講義	
8・9	注射法の実際 皮下・筋肉注射			演習	
10	静脈内注射、点滴静脈内注射の基礎			講義	
11・12	点滴静脈内注射の実際			演習	
13	点滴静脈内注射の実際、輸液の管理方法			演習	
14	輸血法			講義	
15	輸血法の実際			演習	
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 看護がみえる Vol.1、Vol.2					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験 90 点、レポート 10 点を合わせて 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。					



<b>授業科目名</b>	<b>診療の補助技術Ⅱ</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 15 時間	<b>開講年次</b>	1 年次後期	<b>DP</b>	1・2・3・5
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師		
<b>目的</b>	対象の身体症状を観察し、症状を緩和するための援助技術や対処方法を学ぶ。診断や治療を受ける患者の特徴を理解し、必要な援助方法を理解する。また、身体侵襲を伴う技術における、看護の役割や責任を理解する。				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸を整える援助について目的を理解し、器具の取り扱いを含め安全で正確な援助技術を身につけることができる。</li> <li>2. 検査時の看護の役割を理解でき、援助技術を身につけることができる。</li> <li>3. 生体情報モニタリングを行う目的や、対象に与える影響を考え、看護の役割や援助技術が理解できる。</li> <li>4. 処置時の看護の役割や援助技術を理解できる。</li> </ol>				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>	
1	診療の補助技術とは 呼吸を楽にする看護技術 ①酸素吸入療法			講義	
2	呼吸を楽にする看護技術 ②一時的吸引			講義・演習	
3	呼吸を楽にする看護技術			演習	
4	検査・治療を安全に行うための看護技術 検体検査（血液、喀痰、便、尿）			講義・演習	
5	静脈血採血の実際①			演習	
6	静脈血採血の実際②			演習	
7	生体情報のモニタリングに必要な基礎知識 ME 機器			講義・演習	
8	診察・検査・処置の介助技術（診察、画像診断、穿刺）、罨法			講義	
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ					
看護がみえる Vol.2					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験 80 点、レポート 20 点を合わせて 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。					

<b>授業科目名</b>	<b>経過や症状に対する看護</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 30 時間	<b>開講年次</b>	1 年次後期	<b>DP</b>	1・2・3
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師		
<b>目的</b>	健康障害をもつ対象を健康段階からとらえ、健康障害が与える影響や看護の特徴を学び、科学的根拠や倫理的配慮のもと看護実践することの重要性を学ぶ。また、どのような健康障害にも共通する症状に対して、既習の知識を活用しながら、症状を緩和する看護援助を学ぶ。				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護における経過の概念と、各経過における対象の健康上のニーズや看護の特徴、看護援助が理解できる。</li> <li>2. 教育計画を立案し、教育的援助を考えることができる</li> <li>3. 症状のある対象について、科学的根拠をもとに症状のメカニズムを考えることができ、アセスメントの視点が理解できる。</li> <li>4. 症状のある対象のニーズに対して、必要な看護援助を考え計画することができる。</li> </ol>				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>	
1	健康の保持増進に向けた看護			講義	
2・3	急性期の看護			講義	
4	リハビリテーション期の看護			講義	
5	慢性期の看護（事例）			講義	
6・7	慢性期にある患者の看護（教育・指導技術）			講義・演習	
8	終末期の看護 終末期にある患者と家族				
9	終末期の看護 緩和ケア、症状アセスメント、グリーフケア			演習	
10	終末期の看護 危篤、死の3徴候、看取りの看護			講義	
11・12・13	症状別看護（呼吸困難、咳嗽、血圧異常、疼痛、倦怠感、浮腫）			講義・GW	
14・15	症状別看護 成果発表会			GW	
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 専門分野 I 臨床看護総論 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 系統看護学講座 別巻 家族看護学 看護過程に沿った対症看護					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験 80 点、レポート 20 点を合わせて 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。					

<b>授業科目名</b>	<b>基礎看護技術の統合</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 15 時間	<b>開講年次</b>	1 年次後期	<b>DP</b>	1・2・3・5
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師		
<b>目的</b>	演習（シミュレーション）を通して基礎看護学で学んだ知識・技術・態度の統合をはかり、対象に応じた看護を実践するための基礎的能力を身につけることができる。				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習の知識を活用し、対象の看護上の問題を解決する看護計画を実施できる。</li> <li>2. 評価のプロセスを通して、次への看護を考えるというサイクルを経験できる。</li> <li>3. 経験のなかのリフレクションの意義と必要性について理解できる。</li> <li>4. 自己の看護実践に対する学びや課題を明確化できる。</li> </ol>				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>				<b>授業方法</b>
1	事例患者に応じた看護技術を考える 看護目標・計画の立案～実施				講義
2	看護の実施のための準備				講義・演習
3・4	看護の実施 模擬患者に考えた看護を実施する				演習
5	看護の評価、セルフリフレクション				演習
6	カンファレンス（集団でのリフレクション）				演習
7	評価をもとに次への看護を考え、実践する				演習
8	自己の課題の明確化				講義
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I・II 看護がみえる Vol.1、2、3、4 看護過程に沿った対症看護					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験 80 点、レポート 20 点を合わせて 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。					

【臨地実習】

<b>授業科目名</b>	<b>基礎看護学実習 I</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 45 時間	<b>開講年次</b>	1 年次後期	<b>DP</b>	1・2・3・4・5
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>		看護師	
<b>担当講師</b>					
<b>目的</b>	看護の対象とそれを取り巻く環境を理解し、対象とのコミュニケーションや日常生活援助の実際を通して、対象に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。また、看護活動の実際や対象への看護の実際を通して、対象理解や看護の目的、役割・機能について理解する。				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護活動の実際を知り、看護の役割・機能について理解できる。</li> <li>2. 患者の療養環境や日常生活の状況を観て、療養する患者の生活が理解できる。</li> <li>3. 日常生活の援助の必要性を考え、根拠をもとに援助が実施できる。</li> <li>4. 患者に関心をもち、コミュニケーションをはかることができる。</li> <li>5. 看護倫理に基づき、対象を尊重した責任ある行動がとれる。</li> <li>6. 看護実践を通して、自己の看護に対する考えを明らかにできる。</li> </ol>				
<b>授業内容</b>				<b>実習場所と時間内訳</b>	
<p>病棟オリエンテーションを受け、看護師とともに看護活動の実際を見学する。                      日常生活援助の実際をとおして、患者を観察し、患者理解につなげる。                      患者とコミュニケーションを行い、入院や今後への思いを考え知る。                      得た情報をもとに援助の必要性を考える。                      環境調整や援助の見学もしくは一部実施して、援助の効果や振り返りを行う。</p>				大阪病院 45 時間	
<b>成績評価</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 所定の実習時間の 5 分の 4 以上出席し、100 点を満点とし 60 点以上の評点の取得をもって合格とする。</li> <li>2. 実習評価は、平素の実習状況及び内容、提出された諸記録・レポートなど総合して実習評価表に基づき教員及び管理者・実習指導者の三者合意の評価とする。</li> </ol>				
<b>教科書</b>	系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I・II 看護過程に沿った対症看護 看護が見える Vol.1、2、3				
<b>履修条件</b>					

【臨地実習】

<b>授業科目名</b>	<b>基礎看護学実習Ⅱ</b>			
<b>単位・時間数</b>	2 単位 90 時間	<b>開講年次</b>	2 年次前期	<b>DP</b> 1・2・3・4・5
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師	
<b>担当講師</b>				
<b>目的</b>	基礎分野、専門基礎分野で学習した知識・技術・態度を統合して、看護過程を展開して患者の健康上の問題を解決できる基礎的能力を養う。			
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象を身体的、精神的、社会的側面から捉えることができ、健康上の問題を特定できる。</li> <li>2. 対象の健康上の問題を解決するための看護計画を立案、実施、評価ができる。</li> <li>3. 倫理に基づき、対象を尊重した責任ある行動がとれる。</li> <li>4. 看護実践を通して、自己の看護に対する考え方を明らかにできる。</li> </ol>			
<b>授業内容</b>			<b>実習場所と時間内訳</b>	
<p>患者 1 名を受け持ち、看護過程を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1～3 日目は患者の全体像を捉えるため、アセスメントガイドをもとに情報収集を行う。</li> <li>2. 4 日目には、全体像を明確にする。</li> <li>3. 5 日目に、健康上の問題を解決するための看護計画を立案し、それをもとに看護実践を行う。</li> <li>4. 日々カンファレンスの時間を持ち、受け持ち患者の看護展開について討議し、全体像を深め、また知識の補充などにつなげる。</li> </ol>			<p>大阪病院 90 時間</p>	
<b>成績評価</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 100 点を満点とし 60 点以上の評点の取得をもって合格とする。</li> <li>2. 実習評価は、平素の実習状況及び内容、提出された諸記録・レポートなど総合して実習評価表に基づき教員及び管理者・実習指導者の三者合意の評価とする。</li> </ol>			
<b>教科書</b>	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論          系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ          看護過程に沿った対症看護          看護が見える Vol.1、2、3、4</p>			
<b>履修条件</b>	基礎看護学実習Ⅱに先立っては、「基礎看護学実習Ⅰ」の単位を修得しなければならない。			

<b>授業科目名</b>	<b>地域で暮らす人の理解</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 15 時間	<b>開講年次</b>	1 年次前期	<b>DP</b>	2・4・5
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師		
<b>目的</b>	看護の対象は療養者を含めた地域で生活する人々であり、健康や暮らしを支援するために生活の基盤である地域で暮らす人を理解する。				
<b>到達目標</b>	1. 地域とそこで暮らす人々の特徴を知る。 2. 学びを他者と共有し、それを人に伝える力を身につける。				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>	
1	福島区と地域の福祉について			講義	
2	地域の探索			フィールドワーク	
3	発表			GW	
4	地域活動へ参加			フィールドワーク	
5	地域活動へ参加			フィールドワーク	
6	発表			GW	
7	地域の方との交流			GW	
8	まとめ			GW	
<b>教科書</b>					
講師資料					
<b>評価方法・基準</b>					
レポートは 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。					

<b>授業科目名</b>	<b>家族看護</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 15 時間	<b>開講年次</b>	2 年次前期	<b>DP</b>	1・2・4
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師		
<b>目的</b>	看護における家族の概念、家族を理解するための諸理論、家族アセスメントの視点を学ぶことで家族支援の考え方を身につける。				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族を単位として援助することの意義を説明できる。</li> <li>2. 家族員が病気になることによる家族への影響について説明できる。</li> <li>3. 理論を活用しながら家族像を描くことができる。</li> <li>4. 家族との援助関係の形成や支援について考えることができる。</li> </ol>				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>	
1	家族看護とは			講義	
2	家族看護の対象理解			講義	
3	家族看護を支える理論と介入法			講義	
4	家族看護展開の方法（1）			講義	
5	家族看護展開の方法（2）			講義	
6	事例に基づく家族看護学の実践（1）			講義	
7	事例に基づく家族看護学の実践（2）			講義	
8	まとめ			講義	
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 別巻 家族看護学					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験は 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。					

<b>授業科目名</b>	<b>地域・在宅看護論概論</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 30 時間	<b>開講年次</b>	1 年次後期	<b>DP</b>	1・2・3・4
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師・医療ソーシャルワーカー		
<b>目的</b>	看護の対象を個人としてだけでなくケアの最小単位である家族とし、様々な価値観や人生観をもった生活者として理解できる。そして、その人らしい生活と自立に向けた看護を行うため、他職種の専門性を理解し協働する中での社会資源の活用やマネジメントする基礎的能力を習得する				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域・在宅看護を取り巻く社会の現状を踏まえ、地域保健医療福祉活動における、在宅看護の位置づけについて理解できる。</li> <li>2. 在宅療養者と家族の特徴と、権利保障について理解できる。</li> <li>3. 社会資源の活用や他職種との連携を学び、その人らしい生活を支援する方法を理解できる。</li> <li>4. 保健医療福祉活動における看護師の役割、継続看護について理解できる。</li> </ol>				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>	
1	地域・在宅看護の目的と特徴			講義	
2	地域・在宅看護の歴史			講義	
3	地域・在宅看護の対象者			講義	
4	地域・在宅看護の対象者としての家族			講義	
5	地域・在宅看護の提供方法			講義	
6	在宅看護介入期別の特徴			講義	
7	療養の場の移行			講義	
8	地域・在宅看護にかかわる法令・制度			講義	
9	介護保険制度			講義	
10	訪問看護の制度			講義	
11	ケアマネジメントと社会資源の活用（1）			講義	
12	ケアマネジメントと社会資源の活用（2）			講義	
13	地域における多職種連携			講義	
14	療養上のリスクマネジメント			講義	
15	地域・在宅看護における権利保障			講義	
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 統合分野 在宅看護論					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験は 100 点満点とし、60 点以上で合格とする					



<b>授業科目名</b>	<b>地域・在宅看護技術 I</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 30 時間	<b>開講年次</b>	2 年次前期	<b>DP</b>	1・2・3・4
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師		
<b>目的</b>	生活の場に訪問する看護師の基本的姿勢について学ぶ。その人らしく日常生活を過ごせるように在宅での日常生活援助技術や教育的関わりについて学ぶ。また、日常にある物品の工夫や福祉用具の活用について学ぶ。				
<b>到達目標</b>	地域で療養する人々とその家族の抱える問題を解決するために必要な援助の方法を理解できる。				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>	
1	在宅看護の活動を支えるコミュニケーション			16 時間（木下） 講義	
2	在宅におけるフィジカルアセスメント			講義	
3	食生活・嚥下に関する在宅看護技術			講義	
4	排泄に関する在宅看護技術			講義	
5	移動・移乗に関する在宅看護技術			講義	
6	清潔に関する在宅看護技術			講義	
7	認知機能のアセスメント法と援助技術			講義	
8	在宅におけるエンドオブライフケア			講義	
9	脳卒中をおこした患者の在宅療養導入の事例展開（1）			14 時間（小堀） GW	
10	脳卒中をおこした患者の在宅療養導入の事例展開（2）			演習	
11	脳卒中をおこした患者の在宅療養導入の事例展開（3）			演習	
12	小児の療養者に対する在宅看護の事例展開			講義	
13	ALS で人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護の事例展開			講義	
14	独居の療養者に対する在宅看護の事例展開			講義	
15	統合失調症の療養者の在宅看護の事例展開			講義	
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 統合分野 在宅看護論					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験は 100 点満点（木下 50 点、小堀 50 点）とし、60 点以上で合格とする。					

<b>授業科目名</b>	<b>地域・在宅看護技術Ⅱ</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 15 時間	<b>開講年次</b>	2 年次後期	<b>DP</b>	1・2・3・4
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師		
<b>目的</b>	医療処置を必要とする療養者に対して、安全に実施できるための方法と留意点を理解する。起こりうるトラブルとその対処方法を知り、予測すること、予防的ケアの重要性を理解する。				
<b>到達目標</b>	医療処置を必要とする療養者及び家族が、安心して生活できるための援助を理解できる。				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>	
1	褥瘡の予防とケア、尿道留置カテーテル			10 時間（木下） 講義	
2	ストーマ（人工肛門・人工膀胱）			講義	
3	経管栄養法、在宅中心静脈栄養法（HPN）			講義	
4	外来がん治療の支援、疼痛緩和			講義	
5	非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）、在宅人工呼吸療法（HMV）と排痰法 在宅酸素療法（講義）			講義	
6	在宅酸素療法（演習）			5 時間（小堀） 演習	
7	技術演習（経管栄養、気管内吸引、鼻腔・口腔内吸引、摘便）			演習	
8	技術演習（経管栄養、気管内吸引、鼻腔・口腔内吸引、摘便）			演習	
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 統合分野 在宅看護論					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験は 100 点満点（木下 60 点、小堀 40 点）とし、60 点以上で合格とする。					

<b>授業科目名</b>	<b>地域・在宅看護技術Ⅲ</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 15 時間	<b>開講年次</b>	2 年次後期	<b>DP</b>	1・2・3・4
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師		
<b>目的</b>	訪問看護では対象の生活の場に出向くため、看護師としての倫理・人間性が求められる。そのため、人間関係を展開していくためのコミュニケーションやマナーを身につける。また、事例を通して、在宅で看護を実践するための応用力を習得し、終末期にある人が安心して在宅で生活できるよう、在宅ターミナルおよび看取りの看護の基礎的能力を養う。				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>療養者や家族と円滑な人間関係を図るためのコミュニケーションや訪問に必要なマナーを身につけることができる。</li> <li>事例展開を通して、療養者と家族へのその人らしい生活や自立に向けた看護が理解できる。</li> </ol>				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>	
1	在宅看護過程展開のポイント			講義	
2	訪問におけるマナー			講義	
3	終末期（がん）の療養者に対する在宅看護の事例展開			GW	
4	終末期（がん）の療養者に対する在宅看護の事例展開			GW	
5	終末期（がん）の療養者に対する在宅看護の事例展開			演習	
6	終末期（がん）の療養者に対する在宅看護の事例展開			演習	
7	終末期（がん）の療養者に対する在宅看護の事例展開			GW	
8	まとめ			講義	
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 統合分野 在宅看護論					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験は 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。					

【臨地実習】

授業科目名	地域・在宅看護論実習				
単位数・時間	2 単位 90 時間	開講年次	3 年次後期	DP	1・2・3・4・5
担当講師					
実務経験の有無	有	実務経験内容	看護師・理学療法士・介護福祉士		
目的	地域で療養しながら生活する人と家族を理解し、在宅において看護を実践できる基礎的能力を習得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅療養者と家族を生活者として理解できる。</li> <li>2. 在宅療養者と家族の健康問題や生活における問題を理解し、解決するための援助ができる。</li> <li>3. 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割や関係職種との連携について理解することができる。</li> <li>4. 多様な人々の価値観に触れ看護者としての基本姿勢と倫理観を養うことができる。</li> <li>5. 看護実践を通して、在宅看護に対する考えを明らかにできる。</li> </ol>				
授業内容				実習場所と時間内訳	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域包括支援センター（2 日間） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域で生活する対象と家族を支える活動を説明できる</li> <li>2) 地域における介護予防活動について説明できる</li> </ol> </li> <li>2. 居宅介護支援事業所（1 日間） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 居宅介護支援事業所の利用者の説明ができる</li> <li>2) 居宅介護支援事業の内容について説明できる</li> </ol> </li> <li>3. 訪問看護ステーション実習（5 日間） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 在宅における看護の実際について理解できる。</li> <li>2) 地域における訪問看護の役割を理解できる。</li> </ol> </li> <li>4. 外来実習（1 日間） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域で療養しながら生活する人と家族を理解できる。</li> <li>2) 外来における看護師の役割を理解できる。</li> </ol> </li> <li>5. デイサービス・デイケア見学実習（2 日間） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) デイサービス・デイケアにおける看護師の役割を理解できる。</li> </ol> </li> </ol>				<p>地域包括支援センター 16 時間</p> <p>居宅介護支援事業所 8 時間</p> <p>訪問看護ステーション 42 時間</p> <p>大阪病院 8 時間</p> <p>デイサービス・デイケア 16 時間</p>	
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 100 点を満点とし 60 点以上の評点の取得をもって合格とする。</li> <li>2. 実習評価は、平素の実習状況及び内容、提出された諸記録・レポートなど総合して実習評価表に基づき教員及び管理者・実習指導者の三者合意の評価とする。</li> </ol>				
教科書	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 系統看護学講座 別巻 家族看護学				
履修条件	在宅看護論実習に先立っては、「基礎看護学実習Ⅱ」の単位を修得しなければならない。				

授業科目名		成人看護学概論			
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 年次後期	DP	1・2・3・4
担当講師					
実務経験の有無	有	実務経験内容	看護師		
目的	成人期にある対象とその家族の特徴を理解し、対象の生活や価値観に応じた看護が実践できる基礎的知識・技術・態度を習得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ライフサイクルにおける成人の位置づけを成長発達・成熟から理解し、身体的・精神的・社会的特性について統合的に理解できる。</li> <li>2. 成人期における対象とその家族に対して、健康の保持・増進、予防および健康障害からの回復を促すための看護の役割について理解できる。</li> <li>3. 成人教育学および成人看護に有用な概念を学ぶことで、効果的な健康教育や患者教育について理解できる。</li> </ol>				
回数	授業内容			授業方法	
1	成人看護学の位置づけ、成人とは ・成人看護学の対象である成人の理解 ・成長発達段階における成人期の位置づけと成人各期の成長発達			講義・GW	
2	成人保健 保健統計からみた成人の健康の動向 (1)			講義・GW	
3	成人保健 保健統計からみた成人の健康の動向 (2)			講義・GW	
4	成人保健 成人の生活や健康に関する問題と現状			講義	
5・6	成人への看護アプローチの基本 ①大人の学習の特徴(アンドラゴジー)、 健康行動を促進するアプローチ(トランスセリオティカルモデル) ②患者の意思決定のプロセスと看護の役割			講義・RP	
7・8	成人の健康レベルに対応した看護 ①大人のヘルスプロモーションと看護 ②地域社会及び職場のヘルスプロモーションを促進する看護 ③ストレスと健康、健康生活を脅かす要因と実態、生活行動に潜む危険と予防			講義・GW	
9	健康生活の急激な破綻から回復を促す看護			講義	
10	慢性疾患との共存を支える看護 (1)			講義	
11	慢性疾患を抱える患者への看護 (2)			講義	
12	障害がある人の生活とリハビリテーション (1)			講義	
13	障害がある人の生活とリハビリテーション (2)			講義	
14	人生の最期の時を支える看護 (1)			講義	
15	人生の最期の時を支える看護 (2)			講義	
教科書					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 国民衛生の動向					
評価方法・基準					
筆記試験 84 点、レポート 16 点分を合わせて 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。					

授業科目名		成人臨床看護Ⅰ			
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	2 年次前期	DP	2・3・4
担当講師					
実務経験の有無	有	実務経験内容	看護師・集中ケア認定看護師・救急看護認定看護師・がん化学療法認定看護師・がん看護専門看護師		
目的	各健康段階にある成人の看護援助方法、また様々な治療を受ける患者への看護援助方法を習得する。				
到達目標	1. 各健康段階にある成人の身体的・精神的特徴と必要な看護について理解できる。 2. 様々な治療を受ける患者の身体的・精神的・社会的特徴と必要な看護について理解できる。				
回数	授業内容			授業方法	
1	【急性期の看護】 健康状態と看護、急性期における看護、集中治療室とは			4 時間 講義 (集中ケア認定看護師)	
2	集中治療を受ける患者の看護				
3	救急救命時の看護 【様々な治療を受ける患者の看護】			2 時間 講義 (救急看護認定看護師) 演習：BLS	
4	手術室看護			6 時間 講義 (手術看護認定看護師)	
5	周術期看護 (1)				
6	周術期看護 (2)				
7	化学療法を受ける患者の看護			4 時間 講義 (がん化学療法看護認定看護師)	
8	放射線療法を受ける患者の看護			6 時間 講義	
9	【慢性期の看護】 慢性期における看護(エンパワメントエデュケーション、セルフマネジメントを推進する看護技術、自己効力を高める看護教育技術)				
10	慢性期疾患と共存する患者への生活指導を考える				
11	作成した生活指導案を用いて、指導を行う			8 時間 講義 (がん看護専門看護師)	
12	【終末期の看護】 緩和ケア概論 (緩和ケアの現状と展望、緩和ケアにおけるチームアプローチ、緩和ケアにおけるコミュニケーション、緩和ケアにおける倫理的課題)				
13	緩和ケアにおけるコミュニケーション、緩和ケアにおける倫理的課題)				
14	全人的ケアの実践				
15	緩和ケアの広がり 臨死期のケア、家族のケア、医療スタッフのケア				
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 別巻 救急看護学、系統看護学講座 別巻 緩和ケア 系統看護学講座 臨床外科看護総論、系統看護学講座 臨床外科各論 系統看護学講座 臨床看護総論					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験 100 点満点 (集中ケア 15 点、救急看護 5 点、手術看護 20 点、がん化学療法 10 点、慢性期 20 点、緩和ケア 30 点) とし、60 点以上で合格とする。					

授業科目名		成人臨床看護Ⅱ			
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	2 年次前期	DP	2・3
担当講師					
実務経験の有無	有	実務経験内容	看護師		
目的	機能障害が成人の身体面、精神面、社会面に与える影響を理解し、観察・アセスメントし看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を習得する。				
到達目標	呼吸・循環・中枢神経に関わる機能の障害が成人の日常生活に与える影響を理解し、障害の受容や身体機能の維持・回復・向上、QOL の維持・向上にむけた看護について理解できる。				
回数	授業内容			授業方法	
	<b>【呼吸機能障害をもつ患者の看護】</b>			10 時間	
1	呼吸器疾患患者の特徴と看護、主要症状に対する看護（咳・痰、呼吸困			演習：気管内吸引	
2	難）				
3	内科検査・治療を受ける患者の看護（1）			講義	
4	内科検査・治療を受ける患者の看護（2）			講義	
5	呼吸器疾患をもつ患者の看護（1）			講義	
	呼吸器疾患をもつ患者の看護（2）			講義	
				10 時間	
6	<b>【循環機能障害をもつ患者の看護】</b>			講義	
7	循環器疾患患者の特徴と看護			講義	
8	主要症状に対する看護（胸痛、動悸、浮腫、チアノーゼ、倦怠感）			講義	
9	検査を受ける患者の看護（心臓カテーテル法、心電図検査）			講義	
10	治療・処置を受ける患者の看護（薬物療法、心臓リハビリテーション）			講義	
	疾患を持つ患者の看護（虚血性心疾患、心不全、動脈疾患）				
				10 時間	
11	<b>【中枢神経機能障害をもつ患者の看護】</b>			講義	
12	脳神経疾患患者の特徴と看護			講義	
13	主な症状と看護			講義	
14	治療・処置を受ける患者の看護			講義	
15	疾患をもつ患者の看護（1）			講義	
	疾患をもつ患者の看護（2）			講義	
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [7] 脳・神経					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験は 100 点満点（呼吸器 40 点・循環器 30 点・中枢神経 30 点）とし、60 点以上で合格とする。					

授業科目名		成人臨床看護Ⅲ			
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	2 年次前期	DP	2・3
担当講師					
実務経験の有無	有	実務経験内容	看護師・造血細胞移植コーディネーター		
目的	機能障害が成人の身体面、精神面、社会面に与える影響を理解し、観察・アセスメントし看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を習得する。				
到達目標	運動機能、消化・吸収、血液・造血に関わる機能の障害が成人の日常生活に与える影響を理解し、障害の受容や身体機能の維持・回復・向上、QOLの維持・向上にむけた看護について理解できる				
回数	授業内容			授業方法	
	<b>【運動機能障害をもつ患者の看護】</b>			6 時間	
1	運動器疾患患者の特徴と看護			演習：松葉杖、歩行器	
2	主な症状と看護（神経麻痺、四肢の循環障害） 保存療法を受ける患者の看護（牽引療法、ギプス固定）			講義	
3	膝関節の手術を受けた患者の看護とリハビリテーション			講義	
4	股関節の手術を受けた患者の看護とリハビリテーション			6 時間 講義	
5	脊椎の手術を受けた患者の看護とリハビリテーション			講義	
6	股関節の手術を受けた患者の看護(事例展開)			講義	
	<b>【消化・吸収機能に障害をもつ患者の看護】</b>			8 時間	
7	消化器疾患患者の特徴と看護、主な症状に対する看護			講義	
8	検査、内科的治療を受ける患者の看護			講義	
9	胆嚢、膵臓、肝臓疾患のある患者の看護			講義	
10	肝硬変症患者の看護(事例展開)			講義	
11	食道がん・胃がんの手術を受ける患者の看護			8 時間 講義	
12	腸・腹膜疾患の手術を受ける患者の看護			講義	
13	肝臓・胆嚢・膵臓疾患の手術を受ける患者の看護患者の看護			講義	
14	胃がんで手術を受ける患者の看護（事例展開）			講義	
	<b>【血液・造血機能に障害をもつ患者の看護】</b>			2 時間	
15	血液疾患患者の看護			講義	
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [10] 運動器					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [4] 血液・造血器					
系統看護学講座 別巻 臨床外科総論					
系統看護学講座 別巻 臨床外科各論					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験 100 点満点（運動器（北）20 点・運動器（杉）20 点、消化器内科 30 点、消化器外科 30 点）とし、60 点以上で合格とする。					



授業科目名		成人臨床看護Ⅳ			
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	2 年次前期	DP	2・3
担当講師					
実務経験の有無	有	実務経験内容	看護師・糖尿病療養指導士・透析看護認定看護師		
目的	機能障害が成人の身体面、精神面、社会面に与える影響を理解し、観察・アセスメントし看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を習得する。				
到達目標	内部環境調節・感覚・免疫・排泄・生殖に関わる機能の障害が成人の日常生活に与える影響を理解し、障害の受容や身体機能の維持・回復・向上、QOL の維持・向上にむけた看護について理解できる				
回数	授業内容			授業方法	
1	【内部環境調節機能に障害をもつ患者の看護】 下垂病疾患、バセドウ病、甲状腺疾患、副腎疾患のある患者の看護			6 時間 講義	
2	糖尿病の患者の看護			(糖尿病療養指導士) 演習：血糖測定	
3	高尿酸血症、脂質異常症のある患者の看護			10 時間	
4	【皮膚・感覚・免疫機能に障害をもつ患者の看護】 皮膚疾患患者の看護、主要症状に対する看護(掻痒、鱗屑・落屑)			講義	
5	皮膚疾患の治療を受ける患者の看護(帯状疱疹、熱傷、褥瘡、難治性潰瘍)			講義	
6	耳鼻咽喉科疾患の症状がある患者の看護			講義	
7	耳鼻咽喉科疾患に対する治療を受ける患者の看護			講義	
8	眼疾患患者の看護			講義	
9	アレルギー疾患患者の看護(アナフィラキシー、気管支喘息)			講義	
10	膠原病患者の看護(関節リウマチ、多発性筋炎、SLE)			講義	
11	感染症のある患者の看護			講義	
12	【排泄・生殖機能に障害をもつ患者の看護】 腎機能障害のある患者の看護			6 時間	
13	症状(浮腫、高血圧)、検査、治療を受ける患者の看護			講義	
14	腎・泌尿器の主要症状に対する看護、処置を受ける患者の看護			講義	
15	腎・泌尿器の手術療法を受ける患者の看護(経尿道的手術、膀胱全摘術・尿路変更術)			講義	
16	透析治療・外科的治療(腎摘出術・腎移植)を受ける患者の看護			2 時間 講義	
17	女性生殖器疾患患者の特徴と看護			6 時間 講義	
18	女性生殖疾患の治療・処置を受ける患者の看護			講義	
19	手術を受ける患者の看護(乳房切除術、女性生殖器切除術)			講義	
<b>教科書</b>					
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	[6]	内分泌・代謝	
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	[12]	皮膚	
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	[11]	アレルギー・膠原病・感染症	
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	[13]	眼	
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	[14]	耳鼻咽喉	
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	[8]	腎・泌尿器	
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	[9]	女性生殖器	
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験 100 点満点(内分泌 20 点、皮膚・感覚・免疫 30 点、腎・透析 30 点、女性生殖器 20 点)とし、60 点以上で合格とする。					

授業科目名		成人看護技術			
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	2 年次後期	DP	1・2・3・5
担当講師					
実務経験の有無	有	実務経験内容	看護師		
目的	成人期にある患者の看護に必要な思考、技術を習得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周手術期にある成人が受ける身体的・精神的影響について理解し、事例を通して看護過程を展開し、必要な看護について理解できる。</li> <li>2. 周手術期看護において必要な看護技術を実践できる。</li> <li>3. 回復期にある成人の身体的・精神的・社会的側面を理解し、対象がその人らしく生活するために必要な指導を実践できる。</li> </ol>				
回数	授業内容			授業方法	
	<b>【急性期・周手術期の事例展開】</b>				
1	成人期にある患者の特性をふまえたアセスメントの視点 (1)			講義	
2	成人期にある患者の特性をふまえたアセスメントの視点 (2)			講義	
3	成人期にある患者の特性をふまえたアセスメントの視点 (3)			講義	
4	周手術期の事例について、看護過程を展開する (情報分析)			GW	
5	周手術期の事例について、看護過程を展開する (関連図・全体像)			GW	
6	周手術期の事例について、看護過程を展開する (看護計画立案)			GW	
	<b>【演習計画立案】</b>				
7	看護過程を展開したうえで、演習計画を立案する			GW	
	<b>【演習計画に基づいた技術演習】</b>				
8	演習計画に基づいた技術演習 (術前準備の実施)			演習	
9	術前準備の実施技術のふりかえり			GW	
10	演習計画に基づいた技術演習 (術直後の看護)			演習	
11	術直後の実施技術の振り返り			GW	
12	演習計画に基づいた技術演習 (術後の早期離床を支える看護)			演習	
13	術後の早期離床を支える看護技術の振り返り			GW	
	<b>【回復期の事例展開】</b>				
14	回復期にある対象の退院時指導案を立案する			GW	
15	作成した退院時指導案を用いて患者指導の実践を行う			演習	
<b>教科書</b>					
成人看護学に関するすべての教科書					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験 70 点、レポート 30 点を 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。					

【臨地実習】

授業科目名	成人・老年看護学実習 I				
単位・時間数	2 単位 90 時間	開講年次	2 年次後期	DP	1・2・3・4・5
担当講師					
実務経験の有無	有	実務経験内容	看護師		
目的	成人・老年看護学実習では、各発達段階にある対象とその家族の特徴を理解し、その人らしい生活ができる能力を習得する。成人・老年看護学実習 I では、身体機能の喪失や変化が対象の生活に与える影響を理解し、身体機能の維持・回復、生活の自立を支援するための看護が実践できる基礎的能力を養う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、全体像を把握することができる。</li> <li>2. 対象の発達段階・健康段階に応じて、その人らしい自立した生活を送れるよう支援するための看護が実践できる。</li> <li>3. 自己の実施する看護（説明や判断・実施、結果）が対象に与える影響を自覚し、責任ある行動がとれる。</li> <li>4. 看護実践を通し、看護に対する考え方を明確にできる。</li> </ol>				
授業内容				実習場所と時間内訳	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 回復期にある患者へのその人らしい自立した生活を送れるよう支援するための看護を学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者 1 人を受け持ち、看護過程を展開する。</li> <li>2) 1 週目は、患者の状況・状態に応じたアセスメントを行い、受け持ち 4 日目に関連図・全体像を描き、健康上の問題を特定する。5 日目に、特定した健康上の問題を解決する必要な看護計画を立案する。</li> <li>3) 2 週目～3 週目は立案した計画に基づいて援助を実施・評価し、必要に応じて追加・修正し、健康上の問題の解決にむけて援助をする。</li> </ol> </li> <li>2. 看護を実施する中で、自己の実施する看護（説明や判断・実施、結果）が対象に与える影響を自覚し、責任ある行動をとることについて学びを深める。</li> <li>3. カンファレンスを実施し、受け持ち患者の看護展開を討議し、問題解決にむけた知識の補充や患者へのかかわり方、看護に対する考え方を学ぶ。</li> </ol>				大阪病院 90 時間	
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 100 点を満点とし 60 点以上の評点の取得をもって合格とする。</li> <li>2. 実習評価は、平素の実習状況及び内容、提出された諸記録・レポートなど総合して実習評価表に基づき教員及び看護師長・実習指導者の三者合意の評価とする。</li> </ol>				
教科書	成人看護学総論 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2]～[14] 呼吸器・循環器・血液・造血器・消化器・内分泌・代謝・脳・神経・腎・泌尿器 女性生殖器運動器・アレルギー・膠原病・感染症・皮膚・眼・耳鼻咽喉 系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 系統看護学講座 別巻 臨床外科各論 臨床看護総論				
履修条件	成人看護学実習 I に先立っては、基礎看護学実習Ⅱの単位を修得していなければならない。				

【臨地実習】

授業科目名	成人・老年看護学実習Ⅱ				
単位・時間数	2 単位 90 時間	開講年次	2 年次後期	DP	1・2・3・4・5
担当講師					
実務経験の有無	有	実務経験内容	看護師		
目的	成人・老年看護学実習では、各発達段階にある対象とその家族の特徴を理解し、その人らしい生活ができる能力を習得する。成人・老年看護学実習Ⅱでは、疾病や症状が対象の心身や生活に与える影響を理解し、生涯その疾患とつきあいながら、その人らしい生活を送れるよう支援するための看護が実践できる基礎的能力を養う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、全体像を把握することができる。</li> <li>2. 対象の発達段階・健康段階に応じて、その人らしい自立した生活を送れるよう支援するための看護が実施できる。</li> <li>3. 自己の実施する看護（説明や判断・実施、結果）が対象に与える影響を自覚し、責任ある行動がとれる。</li> <li>4. 看護実践を通し、看護に対する考え方を明確にできる。</li> </ol>				
授業内容				実習場所と時間内訳	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慢性期の患者へのその人らしい自立した生活を送れるよう支援するための看護を学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者 1 人を受け持ち、看護過程を展開する。</li> <li>2) 1 週目は、患者の状況・状態に応じたアセスメントを行い、受け持ち 4 日目に関連図・全体像を描き、健康上の問題を特定する。5 日目に、特定した健康上の問題を解決する必要な看護計画を立案する。</li> <li>3) 2 週目～3 週目は立案した計画に基づいて援助を実施・評価し、必要に応じて追加・修正し、健康上の問題の解決にむけて援助をする。</li> </ol> </li> <li>2. 看護を実施する中で、自己の実施する看護（説明や判断・実施、結果）が対象に与える影響を自覚し、責任ある行動をとることについて学びを深める。</li> <li>3. カンファレンスを実施し、受け持ち患者の看護展開を討議し、問題解決にむけた知識の補充や患者へのかかわり方、看護に対する考え方を学ぶ。</li> </ol>				大阪病院 90 時間	
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 100 点を満点とし 60 点以上の評点の取得をもって合格とする。</li> <li>2. 実習評価は、平素の実習状況及び内容、提出された諸記録・レポートなど総合して実習評価表に基づき教員及び看護師長・実習指導者の三者合意の評価とする。</li> </ol>				
教科書	成人看護学総論 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2]～[14] 呼吸器・循環器・血液・造血器・消化器・内分泌・代謝・脳・神経・腎・泌尿器 女性生殖器運動器・アレルギー・膠原病・感染症・皮膚・眼・耳鼻咽喉 系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 系統看護学講座 別巻 臨床外科各論 臨床看護総論				
履修条件	成人看護学実習Ⅱに先立っては、基礎看護学実習Ⅱの単位を修得していなければならない。				

【臨地実習】

授業科目名	成人・老年看護学実習Ⅲ				
単位・時間数	2 単位 90 時間	開講年次	3 年次前期	DP	1・2・3・4・5
担当講師					
実務経験の有無	有	実務経験内容	看護師		
目的	成人・老年看護学実習では、各発達段階にある対象とその家族の特徴を理解し、その人らしい生活ができる能力を習得する。成人・老年看護学実Ⅲでは、生体機能の急激な変化が生命維持に与える影響を理解し、生命維持や苦痛の緩和、健康の回復に向けた看護が実践できる基礎的能力を習得する。また、手術室における看護の実際と看護師の役割を理解し、周手術期にある患者の看護について理解を深める。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手術・麻酔の侵襲や疾患が対象に及ぼす影響を理解できる。</li> <li>2. 対象の状態に応じて、生命維持・健康回復のための看護が実践できる。</li> <li>3. 自己の実施する看護（説明や判断・実施、結果）が対象の生命維持・健康回復に与える影響を自覚し、責任ある行動がとれる。</li> <li>4. 看護実践を通して、自己の看護に対する考えを明らかにできる。</li> <li>5. 手術室での看護の実際を知り、看護師の役割を理解できる。</li> <li>6. 手術室における医療チームの連携とチームにおける看護師の役割が理解できる。</li> </ol>				
授業内容				実習場所と時間内訳	
<p>周手術期にある患者の看護について理解を深めるために、実習 1 週目の初日に手術室見学実習を行い、実習 2 日目以降から病棟実習を行う。</p> <p>【手術室見学実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手術室での看護の実際や手術中の看護師の役割を学ぶために、学生 2～3 名ずつに分かれて手術を見学する。</li> <li>2. 手術室における医療チームの連携とチームにおける看護師の役割を学ぶ。</li> <li>3. 手術を見学して気づいたことや疑問点、実習目的・目標について学んだことと病棟実習に向けての課題などについて意見交換・討議を行う。</li> </ol> <p>【病棟実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2～5 日目は、手術前・手術直後の看護の実際を学ぶために、指導者・担当看護師と行動を共にする。</li> <li>2. 実習 2 日目からは、周手術期の患者を（できる限り、術前から）受け持ち、看護過程を展開する中で、手術・麻酔の侵襲や疾患が対象に及ぼす影響を考え、生命維持・健康回復のための看護を実施する。</li> <li>3. 術後 2 日目に関連図・全体像、術後 3 日目に看護計画を立案し、術後 4 日目以降から主体的に手術後の看護を実施・評価する。</li> <li>4. 原則、受持ち患者の手術は見学する。</li> </ol>				<p>大阪病院 手術室見学実習 8.5 時間</p> <p>病棟実習 81.5 時間</p>	
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 100 点を満点とし 60 点以上の評点の取得をもって合格とする。</li> <li>2. 実習評価は、平素の実習状況及び内容、提出された諸記録・レポートなど総合して実習評価表に基づき教員及び看護師長・実習指導者の三者合意の評価とする。</li> </ol>				
教科書	<p>成人看護学総論            系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2]～[14]            呼吸器・循環器・血液・造血器・消化器・内分泌・代謝・脳・神経・腎・泌尿器            女性生殖器運動器・アレルギー・膠原病・感染症・皮膚・眼・耳鼻咽喉</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科総論            系統看護学講座 別巻 臨床外科各論            臨床看護総論</p>				
履修条件	成人看護学実習Ⅲに先立っては、基礎看護学実習Ⅱを修得していなければならない。				

【臨地実習】

授業科目名	成人・老年看護学実習Ⅳ				
単位・時間数	2 単位 90 時間	開講年次	3 年次前期	DP	1・2・3・4・5
担当講師					
実務経験の有無	有	実務経験内容	看護師		
目的	成人・老年看護学実習では、各発達段階にある対象とその家族の特徴を理解し、その人らしい生活ができる能力を習得する。成人・老年看護学実習Ⅳでは、疾患の慢性的な状態が対象とその家族に与える影響を理解し、人生の最期までその人らしく生活できるように看護を実践する能力を習得する。また、緩和ケア病棟における看護の実際や看護師の役割を理解し、終末期にある対象と家族への看護について理解を深める。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慢性的な状態、あるいは回復が期待できない状態にある対象の全体像を把握することができる。</li> <li>2. 対象の望む生活に近づけ、人生の最期までその人らしく生活できるように支援するための看護が実践できる。</li> <li>3. 緩和ケア病棟での看護の実際を知り、看護師の役割について理解できる。</li> <li>4. 緩和ケア病棟におけるチームアプローチについて理解し、そのなかでの看護師の役割について理解できる。</li> </ol>				
授業内容				実習場所と時間内訳	
<p>【緩和ケア病棟実習】</p> <p>実習オリエンテーション 緩和ケア病棟での見学実習 緩和ケア外来・ペインクリニック外来・リンパケア外来・緩和ケア回診の見学</p> <p>【一般病棟実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慢性期・終末期の患者に対する看護を学ぶために、患者一人を受け持ち、看護過程を展開する。</li> <li>2. 受け持ち 3 日目までに関連図・全体像を描き、4 日目に看護計画を立案する。</li> <li>3. 5 日目から、主体的に受け持ち患者とその家族へ関わり、対象の望む生活に近づけ、その人らしく生活できるように援助を実施・評価する</li> <li>4. 患者との関わりを通して、看護倫理に基づき、対象とその家族を尊重した看護について理解を深める</li> <li>5. カンファレンスを実施し、受け持ち患者の看護展開を討議し、その人らしく生活できるように援助するために必要な援助、患者とその家族への関わり方、看護に対する考え方を学ぶ。</li> </ol>				<p>星が丘医療センター 17 時間</p> <p>大阪病院 73 時間</p>	
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 100 点を満点とし 60 点以上の評点の取得をもって合格とする。</li> <li>2. 実習評価は、平素の実習状況及び内容、提出された諸記録・レポートなど総合して実習評価表に基づき教員及び看護師長・実習指導者の三者合意の評価とする。</li> </ol>				
教科書	<p>系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学総論 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 系統看護学講座 別巻 がん看護学 系統看護学講座 別巻 緩和ケア</p>				
履修条件	成人看護学実習Ⅳに先立っては、基礎看護学実習Ⅱの単位を修得していなければならない。				

<b>授業科目名</b>	<b>老年看護学概論</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 30 時間	<b>開講年次</b>	1 年次後期	<b>DP</b>	1・2・3・4
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師・認知症ケアサポーター		
<b>目的</b>	<p>老年期にある人々の特徴、高齢者を取り巻く保健医療・福祉の状況、また、多職種と協働して対象の健康を守るという任務を十分に果たすために必要な、法令や社会保障の理念や制度の考えを身につけるための基礎的知識を理解する。</p>				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期における身体的・精神的・社会的特徴を理解し、その人らしい生活とその人らしく健康を支えるための看護について理解できる。また家族支援のあり方や社会資源の活用について理解できる。</li> <li>2. 高齢者の価値・信念に基づいてより健康な生活をおくることの意義について理解できる。</li> <li>3. 高齢社会における医療と福祉の意義について理解し、保健福祉活動と看護の役割について理解できる。</li> </ol>				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>	
1	高齢者のイメージ			講義・ワールドカフェ	
2	高齢者社会の現況			講義	
3	高齢者差別と権利擁護			講義	
4	身体拘束			講義	
5	成年後見制度と日常生活自立支援事業			講義	
6	高齢者保健医療福祉の動向と内容 (1)			協同学習	
7	高齢者保健医療福祉の動向と内容 (2)			協同学習・講義	
8	介護保険制度			講義	
9	高齢者の加齢に伴う身体的変化 (1)			講義・事前課題	
10	高齢者の加齢に伴う身体的変化 (2)			協同学習	
11	高齢者の加齢に伴う身体的変化 (3)			講義	
12	高齢者体験			演習	
13	高齢者の加齢に伴う心理的变化			講義	
14	高齢者の加齢に伴う社会的変化			講義	
15	高齢者の理解や老年看護の実践にかかわる基本的な理論・概念			講義	
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 国民衛生の動向					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験 90 点、レポート 10 点を合わせて 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。					

<b>授業科目名</b>	<b>老年臨床看護 I</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 30 時間	<b>開講時期</b>	2 年次前期	<b>DP</b>	1・2・3・4
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師・認知症ケアサポーター		
<b>目的</b>	高齢者に特有な症候・疾患・障害が身体面・精神面・社会面に与える影響について理解し、高齢者の生活を支える看護援助方法について習得することをねらいとする。				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者に起こりやすい症状が日常生活に及ぼす影響を理解できる。</li> <li>2. 治療や処置が高齢者の心身に及ぼす影響を理解し、苦痛・不安の緩和や回復への意欲を高めるための看護について理解できる。</li> <li>3. 高齢者やその家族の QOL の維持・向上にむけた看護について理解できる。</li> </ol>				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>	
1	老年看護の特徴と役割			事前課題・講義	
2	老年看護における理論・概念			講義	
3・4・5	高齢者の生活を支える看護、高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護 ・コミュニケーションに影響を及ぼす要因・アセスメントと看護 視覚障害、聴覚障害、言語障害			講義 演習 講義	
6・7	・活動に影響を与える要因・アセスメントと看護 廃用症候群			講義 講義	
8・9	・食生活に影響を与える要因・アセスメントと看護 摂食嚥下障害			講義 講義・演習	
10・11	低栄養・脱水・褥瘡			講義	
12	骨粗鬆症・骨折			講義	
13	・排泄障害に影響を与える要因・アセスメントと看護 尿失禁・便秘・下痢			講義 講義	
14	・清潔に影響を与える要因・アセスメントと看護 皮膚の障害・感染			講義 講義・演習	
15	・高齢者の休息に影響を与える要因・アセスメントと看護			講義	
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 専門分野 II 老年看護学 系統看護学講座 専門分野 II 老年看護 病態・疾患論					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験 90 点、レポート 10 点を合わせて 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。					



<b>授業科目名</b>	<b>老年臨床看護Ⅱ</b>			
<b>単位・時間数</b>	1 単位 15 時間	<b>開講年次</b>	2 年次後期	DP 1・2・3・4
<b>担当講師</b>				
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	認知症看護認定看護師	
<b>目的</b>	認知症高齢者と家族の生活を支える看護、および、様々な健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護援助方法を習得することをねらいとする。			
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症高齢者の特徴を知り、症状が日常生活に及ぼす影響を理解できる。</li> <li>2. 認知症高齢者の QOL の維持・向上にむけた看護について理解できる。</li> <li>3. 高齢者の各健康段階における看護について理解できる。</li> </ol>			
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>
1	健康段階各期の高齢者の特徴と看護(1)			講義
2	健康段階各期の高齢者の特徴と看護(2)			講義
3	健康段階各期の高齢者の特徴と看護(3)			講義
4	老年期における終末期の看護、エンドオブライフケア			講義・演習
5	認知機能障害のある高齢者の看護(1)			講義
6	認知機能障害のある高齢者の看護(2)			講義
7	認知機能障害のある高齢者の看護(3)			講義・演習
8	認知機能障害のある高齢者の看護(4)			講義
<b>教科書</b>				
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論				
<b>評価方法・基準</b>				
筆記試験 90 点、レポート 10 点を合わせて 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。				

<b>授業科目名</b>	<b>老年看護技術</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 20 時間	<b>開講年次</b>	2 年次後期	<b>DP</b>	1・2・3・4
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師・認知症ケアサポーター		
<b>目的</b>	疾病や病態生理からではなく、高齢者の日常生活がどのように行われているのかという生活機能から見ることで、高齢者の全体像を把握し、高齢者のできることに、価値観などを大切にしながら生活を中心に考える看護を展開する技術を習得する。				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>事例をとおして高齢者の身体面・精神面・社会面におよぼす影響を理解できる。</li> <li>生活機能の視点からアセスメントし、看護を展開する技術を身につけることができる。</li> </ol>				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>	
1	老年の特徴をふまえたアセスメントの視点を考える			講義・課題	
2・3	老年の特徴をふまえたアセスメントの視点を考える			協同学習	
4	老年の特徴をふまえたアセスメントの視点を考える			協同学習	
5	生活機能からみたアセスメント			講義	
6・7	事例展開（アセスメント・看護計画）			協同学習	
8	発表			協同学習・講義	
9・10	褥瘡予防（体圧測定とマットレスの選択）			講義・演習	
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験 75 点、レポート 25 点を合わせて 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。					

【臨地実習】

<b>授業科目名</b>	<b>老年看護学実習</b>			
<b>単位・時間数</b>	2 単位 90 時間	<b>開講年次</b>	3 年次前期	<b>DP</b> 1・2・3・4・5
<b>担当講師</b>				
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師・認知症ケアサポーター	
<b>目的</b>	多様な場で生活する高齢者を理解し、その人らしい生活ができるように高齢者のもてる力に働きかけ、看護を実践する基礎的能力を習得する。また、そのために保健・医療・福祉システムの実際と多職種連携について理解を深める。			
<b>到達目標</b>	(介護老人福祉施設実習) 1. 施設における専門職の役割と連携について理解できる。 2. 高齢者の特徴を理解し、入所者への理解を深めて関与することができる。 3. 看護倫理に基づき、自分の行動に責任を持つことができる。 (デイサービス実習) 1. 要支援者・要介護者に提供される居宅サービスの実際がわかる。			
<b>授業内容</b>			<b>実習場所と時間内訳</b>	
(介護老人福祉施設実習) 1. 入所者を一人受け持ち、かかわりから全体像を把握する。 2. 施設における専門職の役割と連携について学ぶために、看護師と行動を共にし、援助を見学する。 3. 入所者への理解を深めるために、入所者の生活リズムを理解し、状況・状態に応じたコミュニケーションを行う。 4. 入所者とのコミュニケーションの 1 場面を取り上げ、プロセスレコードを 4 日間記載し、コミュニケーションを振り返る。 (デイサービス実習) 1. デイサービスの実際を見学する。			介護老人福祉施設 80 時間  デイサービス 認知症対応型デイサービス 10 時間	
<b>成績評価</b>	1. 100 点を満点とし 60 点以上の評点の取得をもって合格とする。 2. 実習評価は、平素の実習状況及び内容、提出された諸記録・レポートなど総合して実習評価表に基づき教員及び看護師長・実習指導者の 3 者合意の評価とする。			
<b>教科書</b>	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 国民衛生の動向			
<b>履修条件</b>	老年看護学実習に先立っては、「基礎看護学実習Ⅱ」の単位を修得しなければならない。			

<b>授業科目名</b>	<b>小児看護学概論</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 30 時間	<b>開講年次</b>	2 年次前期	<b>DP</b>	1・2・3・4
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師		
<b>目的</b>	子どもの成長発達と現代における子ども像をとらえ、小児看護の基本的な考え方を理解することをねらいとする。				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの正常な成長・発達とのかかわりを理解し、対象の発達段階に応じた看護を行なうための基礎的知識について理解できる。</li> <li>2. 現代の子どもにおける健康問題について理解できる。</li> <li>3. 子どもを取巻く環境について理解できる。</li> <li>4. 小児看護の特徴や役割について理解できる。</li> </ol>				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>	
1	子どもとは、小児看護とは			講義	
2	子どもの成長・発達			講義	
3	新生児期の理解			講義	
4	乳児期の理解			講義	
5	乳児期の理解～日常生活の世話			講義	
6	幼児期の理解			講義	
7	幼児期の理解～生活習慣の確立			講義	
8	学童期の理解			講義	
9	思春期・青年期の理解			講義	
10	家族の特徴			講義	
11	子どもの死亡に関する動向と対策			講義	
12	子どもと家族を支える法律・施策			講義	
13	小児看護における倫理、子どもの権利 (1)			講義・GW	
14	小児看護における倫理、子どもの権利 (2)			GW	
15	発表・まとめ			発表・まとめ	
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。					

<b>授業科目名</b>	<b>小児臨床看護 I</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 30 時間	<b>開講年次</b>	2 年次前期	<b>DP</b>	1・3
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	医師		
<b>目的</b>	子どもに特徴的な疾病や治療の基本的な考えを理解し、健康障害を持つ子どもの観察やアセスメントを行う上で必要な基礎的知識を習得する。				
<b>到達目標</b>	1. 子どもに特徴的な疾病と、治療・処置・検査法について理解できる。 2. 疾病や障害を持つ子どもの特徴について理解できる。				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>	
1	小児の特徴、成長、発達			講義	
2	染色体異常、遺伝性疾患			講義	
3	栄養、消化器疾患			講義	
4	循環器疾患、川崎病			講義	
5	血液・腫瘍性疾患			講義	
6	細菌感染症			講義	
7	腎・泌尿器疾患			講義	
8	呼吸器疾患、アレルギー疾患			講義	
9	ウイルス感染症、予防接種			講義	
10	リウマチ性疾患、免疫不全			講義	
11	新生児、眼・耳・運動器疾患			講義	
12	虐待・事故、皮膚疾患			講義	
13	内分泌・代謝疾患			講義	
14	神経疾患、発達障害、心身症、精神疾患			講義	
15	小児救急疾患			講義	
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。					

<b>授業科目名</b>	<b>小児臨床看護Ⅱ</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 30 時間	<b>開講年次</b>	2 年次後期	<b>DP</b>	1・2・3
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師		
<b>目的</b>	子どもの成長発達を支えながら、健康問題を持つ子どもが主体となるよう家族を含めた看護を行うための基礎的能力を習得する。				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾病を持つ子どもとその家族への基礎的な看護について理解できる。</li> <li>2. 子ども特有の症状とその看護について理解できる。</li> <li>3. 入院治療処置が子どもとその家族に与える影響について理解できる。</li> <li>4. 子どもの発達段階に応じて、セルフケア能力を生かした看護について理解できる。</li> </ol>				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>	
1	病気・障害を持つ子どもと家族の看護 (1)			講義	
2	病気・障害を持つ子どもと家族の看護 (2)			講義	
3	子どもの状況 (環境) に特徴づけられる看護 (1)			講義	
4	子どもの状況 (環境) に特徴づけられる看護 (2)			講義	
5	疾病の経過とその看護 (急性期、慢性期、周手術期、終末期) (1)			講義	
6	疾病の経過とその看護 (急性期、慢性期、周手術期、終末期) (2)			講義	
7	疾病の経過とその看護 (急性期、慢性期、周手術期、終末期) (3)			講義	
8	症状を示す子どもの看護 (1)			講義	
	(機嫌、痛み、発熱、嘔吐、下痢、便秘、呼吸困難、チアノーゼ、ショック、アレルギー、痙攣)			講義	
9	症状を示す子どもの看護 (2)			講義	
10	症状を示す子どもの看護 (3)			講義	
11	検査処置を受ける子どもの看護 (1)			講義	
12	検査処置を受ける子どもの看護 (2)			講義	
13	障害のある子どもの看護 (1)			講義	
14	障害のある子どもの看護 (2)			講義	
15	虐待と看護			講義	
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床各論					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。					

<b>授業科目名</b>	<b>小児看護技術</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 15 時間	<b>開講年次</b>	2 年次後期	<b>DP</b>	1・2・3
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師		
<b>目的</b>	具体的な事例を挙げ、子どもの特徴をふまえた小児看護技術を習得する。フィジカルアセスメントやプレパレーションを取り入れて子どもの成長・発達を理解や倫理的な側面に配慮した看護を実践するための技術を習得する。				
<b>到達目標</b>	1. 事例を通して健康障害のある子どもとその家族の看護が理解できる。 2. 子どもの特徴を踏まえた、基礎的な小児看護技術を身につけることができる。				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>	
1	コミュニケーション、VS(呼吸・体温・脈拍・血圧)、 身体測定(体重、身長、頭囲、胸囲、大泉門)			講義・GW	
2	身体的アセスメント：臨床講師			演習	
3	【事例展開】小児の特徴をふまえたアセスメントの視点(1)			講義・演習	
4	【事例展開】小児の特徴をふまえたアセスメントの視点(2)			講義	
5	フィジカルアセスメント（事例）：臨床講師			演習	
6	日常生活・症状緩和・事故予防の看護			演習	
7	プレパレーション			講義・GW	
(45分)	(ネフローゼ症候群・成長ホルモン分泌検査・気管支喘息・扁桃全摘)				
8	プレパレーションの発表			発表・まとめ	
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。					

【臨地実習】

<b>授業科目名</b>	<b>小児看護学実習</b>				
<b>単位・時間数</b>	2 単位 90 時間	<b>開講年次</b>	3 年次前期	<b>DP</b>	1・2・3・4・5
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師・保育士		
<b>目的</b>	子どもとその家族の権利を尊重し、各発達段階を理解し、子どもの成長・発達段階や健康段階に応じて、家族を含めた看護が実践できる基礎的能力を養うことをねらいとする。				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもとの関わりを通して、子どもの成長発達過程の実際と、成長発達を促す日常生活援助が理解できる。</li> <li>2. 健康障害がある子どもとその家族の全体像を把握できる。</li> <li>3. 成長発達段階・健康段階に応じた援助ができる。</li> <li>4. 自己の実施する看護が子ども及び家族に与える影響を自覚し、子どもの権利を尊重した責任ある行動がとれる。</li> <li>5. 看護実践を通して看護に対する考え方を明確にできる。</li> </ol>				
<b>授業内容</b>				<b>実習場所と時間内訳</b>	
(保育所実習) 1. 1 週目に保育所で 3 日間実習する。 1) 保育所の概要および子どもへの接し方や、保育所における看護師の役割と実際の業務の説明を受ける。 2) 子どもとの成長発達過程の実際と、成長発達を促す日常生活援助を学ぶために、各クラスに入り遊びや日常生活援助などに関わる。 (学内実習) 2. 保育実習で学んだ、子どもの成長発達過程の実際と、成長発達を促す日常生活援助を病棟実習に活かすために、学内で事例検討を行う。 1) 小児の事例に基づいて看護について討議し、発達段階と健康段階に応じた子どもとその家族へのかかわり方を考える。 2) 小児看護の事例に基づき、プレパレーションやディストラクション、日常生活援助などの演習を実施・評価し、課題を明確にする。 (病棟実習) 3. 健康障害がある子どもへの看護を学ぶために、8 日間病棟実習を行う。 1) 患児 1 人を受け持ち、発達段階・健康段階に応じた看護を実施する。 2) 患児との関わる中で、子どもの権利を尊重した責任ある行動について理解を深める。 4. カンファレンスを実施し、受け持ち患児の看護を討議し、問題解決にむけた知識の補充や患児とその家族へのかかわり方を学び、小児看護に対する考えを深める。				認定こども園 25.5 時間  学内実習 4.5 時間  大阪病院 60 時間	
<b>成績評価</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 100 点を満点とし 60 点以上の評点の取得をもって合格とする。</li> <li>2. 実習評価は、平素の実習状況及び内容、提出された諸記録・レポートなど総合して実習評価表に基づき教員及び看護師長・実習指導者 3 者合意の評価とする。</li> </ol>				
<b>教科書</b>	系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I・II 看護がみえる Vol.1、2、3				
<b>履修条件</b>	小児看護学実習に先立っては、「基礎看護学実習 II」の単位を修得しなければならない。				



授業科目名		母性看護学概論			
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講時期	2 年次前期	DP	1・2・3・4
担当講師					
実務経験の有無	無	実務経験内容	看護師		
目的	ライフサイクルを通じて母性とは何かを理解し、女性のライフサイクルにおける身体的・精神的・社会的特徴を理解する。また、リプロダクティブヘルス／ライツの理解を通して女性の健康問題や権利・生命倫理と母子保健活動における看護の役割について理解する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 女性のライフサイクルにおける身体的・精神的・社会的特徴について理解できる。</li> <li>2. リプロダクティブヘルス／ライツの理解を通して女性のライフサイクルにおける健康問題と権利および生命倫理について理解できる。</li> <li>3. 母子保健統計と政策について理解し、母子保健活動における看護の役割について考えることができる。</li> </ol>				
回数	授業内容			授業方法	
1	母性看護の基盤となる概念 母性の定義、リプロダクティブ／ヘルス・ライツ			講義 GW	
2	命の誕生、親と自分、ヘルスプロモーション リプロダクティブヘルス・ケア①家族計画（避妊）不妊治療			事前課題、講義 GW	
3	リプロダクティブヘルス・ケア ②性感染症と予防・看護			講義	
4	リプロダクティブヘルス・ケア ③人工妊娠中絶と看護			講義	
5・6	リプロダクティブヘルス・ケア ④喫煙女性と看護 ⑤性暴力と看護 リプロダクティブヘルス・ケア ⑥児に対する虐待 ⑦国際化社会と看護			GW（ワールドカフェ）・講義	
7	基礎体温表の解説（ホルモン、月経周期、月経異常など）妊娠の成立、胎児の性分化から性腺、性器分化異常、性周期			事前課題・講義	
8	ライフサイクルにおける女性の健康と看護 思春期の健康問題と看護、性教育について			講義	
9	更年期・老年期の健康問題と看護			講義	
10	日本の母性看護の歴史、母性看護の動向、産科医療補償制度、母性看護に関わる法律・施策			講義、GW	
11	母性の生命倫理を考える			ディベート	
12	ディベートの振り返り、母性看護における倫理、安全・事故予防、母性看護と災害支援			GW・講義	
13	母性看護過程 ウェルネスの看護過程の考え方			講義	
14	母性看護過程 ヘルスアセスメントと健康教育・保健指導			講義	
15	周産期に必要な用品、行事などの調査・発表 母性看護のあり方			GW	
教科書					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論					
評価方法・基準					
筆記試験 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。					

<b>授業科目名</b>	<b>母性臨床看護 I</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 20 時間	<b>開講年次</b>	2 年次前期	<b>DP</b>	1・2・3
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	医師		
<b>目的</b>	周産期各期の母体と胎児および新生児の身体的・生理的特性を理解し、健康状態をアセスメントするための基礎的知識を習得する。				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周産期各期における母体の身体的変化と正常な経過及び正常からの逸脱について理解できる。</li> <li>2. 胎児および新生児の正常な発育経過と正常からの逸脱について理解できる。</li> <li>3. 周産期各期におけるハイリスク要因とその管理について理解できる。</li> </ol>				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>	
1	遺伝相談と出生前診断 不妊とその原因、不妊検査、不妊治療			講義	
2	妊娠期の身体的特性、妊娠とその診断 妊娠期の心理・社会的特性			講義	
3	妊婦検診（妊娠期に行う検査と目的、胎児の発育と健康状態の診断、妊婦・胎児の経過の診断とアセスメント）			講義	
4	妊娠の異常（1）ハイリスク妊娠（2）妊娠期の感染症			講義	
5	妊娠の異常（3）妊娠疾患・多胎妊娠・妊娠持続期間の異常・異所性妊娠			講義	
6	分娩（1）分娩の要素・分娩の経過（2）分娩の異常			講義	
7	分娩（3）分娩の異常・産科処置と産科手術			講義	
8	産褥（産褥経過・産褥の異常①子宮復古不全②産褥期の発熱③産褥血栓症④精神障害⑤その他）			講義	
9	新生児（新生児の生理、機能、診断、健康状態のアセスメント）			講義	
10	新生児の異常（新生児仮死、分娩外傷、低出生体重児、高ビリルビン血症、新生児・乳児ビタミンK欠乏出血症など）			講義	
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。					

<b>授業科目名</b>	<b>母性臨床看護Ⅱ</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 30 時間	<b>開講年次</b>	2 年次後期	<b>DP</b>	1・2・3・4
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	助産師		
<b>目的</b>	周産期各期における母体の身体的特性と心理・社会的特性を理解し、健康の保持・増進するための看護を習得する。				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周産期各期における母体の身体的変化と経過を理解し妊産褥婦の心理・社会面に及ぼす影響を理解できる。</li> <li>2. 周産期各期の経過に応じた妊産褥婦のセルフケア能力を高める援助が理解できる。</li> <li>3. 新生児の特徴を理解し、児の健康な発達にむけての援助が理解できる。</li> <li>4. 周産期各期における家族の看護が理解できる。</li> </ol>				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>	
1	妊娠期の看護：妊婦の心理、保健指導について			講義	
2	妊娠期の看護：保健指導の実際、事例演習			GW	
3	妊娠期の看護：不妊治療の看護			講義	
4	妊娠期の看護：ハイリスク妊婦の看護			講義	
5	分娩期の看護：分娩の要素			講義	
6	分娩期の看護：分娩の経過			講義	
7	分娩期の看護：産褥・胎児・家族のアセスメント			講義	
8	分娩期の看護：褥婦と家族の看護、分娩期の看護の実際			講義	
9	分娩期の看護：分娩の異常と看護			講義	
10	産褥期の看護：退行性変化、産後の身体的変化について			講義	
11	産褥期の看護：進行性変化、授乳について			講義	
12	産褥期の看護：褥婦の心理的变化、産褥指導、帝王切開の看護			講義	
13	新生児期の看護：新生児の生理			講義	
14	新生児の看護：新生児のアセスメント、マススクリーニング			講義	
15	新生児の看護：新生児仮死、高ビリルビン血症			講義	
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。					

<b>授業科目名</b>	<b>母性看護技術</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 15 時間	<b>開講年次</b>	2 年次後期	<b>DP</b>	1・2・3
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	無	<b>実務経験内容</b>	看護師		
<b>目的</b>	妊産褥婦のセルフケア能力を高め、児が健康に成長発達するための看護技術を習得する。また事例を通して対象の元来備わっている力を引き出し、周産期各期の生理的な現象が順調に経過できるように看護を実践するための技術を習得する。				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周産期看護に必要な観察および日常生活援助技術の基礎的能力を身につけることができる。</li> <li>2. 事例を通して健康上の強みに着目してアセスメントし、周産期各期の対象とその家族の問題を解決する看護について理解できる。</li> </ol>				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>	
1	妊娠期に必要な看護技術（レオポルド触診法、ドップラー、計測）			講義	
2	指導案とは 妊娠期の事例のアセスメントと保健指導の GW			講義・GW	
3	分娩期の看護過程、分娩期の事例 GW			講義・GW	
4	分娩期の看護（アセスメント・呼吸法・タッチング・マッサージ法）			講義	
5	産褥期の看護過程、産褥期の事例 GW（アセスメント、母体の回復の援助・産褥指導、育児指導、授乳指導、沐浴指導）			講義・GW	
6	沐浴についてデモンストレーション、沐浴演習			演習	
7	看護技術の演習（レオポルド触診法、ドップラー、計測）			演習・RP	
8	子宮底測定・ポジショニング・ラッチオン・排気・SMC マッサージ ミルク授乳、オムツ交換など				
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。					

【臨地実習】

<b>授業科目名</b>	<b>母性看護学実習</b>				
<b>単位・時間数</b>	2 単位 90 時間	<b>開講年次</b>	3 年次後期	<b>DP</b>	1・2・3・4・5
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	無	<b>実務経験内容</b>		看護師・助産師	
<b>目的</b>	周産期各期における妊産褥婦および児とその家族の特徴を知り、対象に応じた看護を 実践できる能力を養うとともに、命を育む過程や生命の誕生に触れ、生命倫理につ いて自己の考えを深めることができる。				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周産期各期の妊産褥婦および児とその家族の特徴を知り、正常に経過するための 看護が実践できる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 妊婦および胎児とその家族の特徴を知り、妊娠経過に応じた看護が理解できる。</li> <li>2) 産婦および児とその家族の特徴を知り、分娩進行に応じた援助ができる。</li> <li>3) 褥婦および新生児とその家族の特徴を知り、産褥経過に応じた援助ができる。</li> <li>4) 新生児と褥婦の特徴を知り、児の胎外生活適応にむけた援助ができる。</li> </ol> </li> <li>2. 専門職としての責任を自覚し、看護倫理に基づいた看護を実践できる。</li> <li>3. 看護実践を通して、自己の母性看護に対する考えを明らかにできる。</li> </ol>				
<b>授業内容</b>				<b>実習場所と時間内訳</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的に学生 2 名で妊娠期・分娩期、産褥期、新生児期をローテーション する。</li> <li>2. 1 週間で妊娠期および分娩期の看護を理解し、実施する。 (妊娠期実習) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 妊娠経過に応じた看護を理解するために、2 日間（午前中）産婦人科外来 で保健指導を見学する。</li> <li>2) 可能であれば、超音波検査の見学、助産師の指導のもとで、腹囲・子宮底 計測、ドップラー聴診など看護技術を実施する。</li> </ol> </li> <li>(分娩期実習) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 分娩期にある産婦 1 人を受け持ち、産婦および児とその家族の特徴を知 り、分娩進行に応じた援助を実施する。 (実習時間中に入院から分娩第 4 期までの産婦が対象)</li> <li>2) 帝王切開の場合は、指導者のもと手術室で見学する。</li> </ol> </li> <li>3. 産褥期の看護および新生児期の看護をそれぞれ 1 週間実施する。 (産褥期実習) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 分娩後は可能であれば引き続き受け持ち、産褥期実習に移行し、産褥経過 に応じた援助をする。</li> <li>2) 受け持ち期間は原則、受け持ち褥婦が退院するまでとする。</li> </ol> </li> <li>(新生児期実習) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 新生児 1 人を受け持ち、児の胎外生活適応にむけた援助を実施する。</li> <li>2) 受け持ち期間は原則、受け持ち新生児が退院するまでとする。</li> <li>3) 分娩がある場合は、出生直後の新生児看護を見学する。</li> </ol> </li> <li>4. その他、機会があれば見学実習を実施する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) マタニティクラス：第 1・3 水曜日</li> <li>2) 産後 2 週間健診：毎週月曜日</li> <li>3) 産後 1 か月健診：毎週水曜日</li> <li>4) 助産師外来（乳房外来・妊婦健診）：毎週火・金曜日</li> </ol> </li> </ol>				大阪病院 90 時間	
<b>成績評価</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 100 点を満点とし 60 点以上の評点の取得をもって合格とする。</li> <li>2. 実習評価は、平素の実習状況及び内容、提出された諸記録・レポートなど総合して 実習評価表に基づき教員及び看護師長・実習指導者の三者合意の評価とする。</li> </ol>				
<b>教科書</b>	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論				
<b>履修条件</b>	母性看護学実習に先立っては、「基礎看護学実習Ⅱ」の単位を修得しなければならない。				

<b>授業科目名</b>	<b>精神看護学概論</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 30 時間	<b>開講年次</b>	2 年次前期	<b>DP</b>	1・2・3・4
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師		
<b>目的</b>	人の心の働きとその成長及び心の健康の保持・増進について学ぶとともに、精神医療・保健の変遷も含めて精神保健に関する法制度について理解し、心の健康問題に幅広く対応するための基礎的能力を習得する。				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の心の発達と心の健康問題に関連する要因について学び、あらゆる場で生活する人やあらゆる発達段階・健康段階にある人の心の健康について理解できる。</li> <li>2. 精神保健看護の基本概念を学び、看護の特徴や役割について理解できる。</li> <li>3. 精神障害者に対する社会の動向を把握し、精神障害者の権利、社会保障について理解できる。</li> </ol>				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>	
1	精神看護学とは			講義	
2・3	精神保健の考え方			講義	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 心の健康・不健康の考え方</li> <li>• 精神障害という考え方</li> </ul>			講義	
4・5	心のはたらきと人格の形成			講義	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 人間の心の理解</li> <li>• 心の仕組みと人格の発達</li> <li>• ストレス・防衛機制について</li> </ul>			講義	
6	危機理論と危機介入			講義	
7	パーソナリティの成長・発達			講義	
	人格の発達			講義	
8	発達段階における危機（乳幼児期・学童期・思春期・壮年期）			講義	
9	発達段階における危機（老年期）			講義	
10	関係の中の人間（家族の多様性と精神の健康）				
11	環境と心のはたらき				
12	医療現場における危機（患者の心理、せん妄、抑うつ）				
13	医療現場における危機（急性期、終末期）				
14	災害時における危機（急性ストレス障害、PTSD）				
15	精神保健福祉制度（精神保健福祉の変遷、精神保健福祉法）				
	地域精神保健活動（障害者自立支援法）				
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学(1) 精神看護の基礎					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。					

<b>授業科目名</b>	<b>精神臨床看護 I</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 15 時間	<b>開講年次</b>	2 年次前期	<b>DP</b>	1・2・3
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	医師		
<b>目的</b>	精神障害の基本的な考えを理解し、精神障害者の観察やアセスメントを行なう上で必要な基礎的知識を習得する。				
<b>到達目標</b>	1. 精神障害に対する原因・分類・症状を知り、精神障害とは何かを正しく理解できる。 2. 精神疾患における検査・治療について理解できる。				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>	
1	精神障害の診断と分類			講義	
2	統合失調症			講義	
3	気分障害			講義	
4	認知症			講義	
5	せん妄・神経性障害			講義	
6	神経発達障害			講義	
7	薬物療法			講義	
8	緩和ケア			講義	
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 専門分野 II 精神看護学(1) 精神看護の基礎 系統看護学講座 専門分野 II 精神看護学(2) 精神看護の展開					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。					

授業科目名		精神臨床看護Ⅱ			
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	2 年次後期	DP	1・2・3・4
担当講師					
実務経験の有無	有	実務経験内容	看護師		
目的	対人関係を基軸に精神障害者の自立と社会復帰に向けた看護を行うための基礎的能力を習得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者－看護師の相互作用の特徴を知り、対人関係を基軸とした援助方法と精神障害のある人の自立に向けた看護について理解できる。</li> <li>2. 精神障害者の人権擁護に配慮した看護について理解できる。</li> <li>3. 支援システムを活用して、精神障害者が地域で生活していくための援助について理解できる。</li> </ol>				
回数	授業内容			授業方法	
1	精神障害者の理解と考え方			講義	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 精神障害者の理解</li> <li>• 精神障害者との関わり方・コミュニケーション</li> <li>• 患者 - 看護師関係の理解</li> </ul>			講義	
3	精神障害者の理解考え方【プロセスレコード】			講義	
4	精神障害者のセルフケアの援助			講義	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 精神障害者にみられるセルフケアの問題とその要点</li> <li>• 精神科における観察のポイントと記録</li> </ul>			講義	
5	患者家族の理解とその援助				
6	主な症状に対する看護			講義	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 精神症状・神経症状と看護</li> </ul>			講義	
7	診察・検査および治療に伴う看護				
8	精神疾患に対する看護			講義	
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 統合失調症・双極性障害・不安障害・身体合併症認知症</li> </ul>			講義	
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自閉症スペクトラム障害・摂食障害・パーソナリティ障害</li> <li>• アルコール依存症・薬物依存症</li> </ul>			講義	
11	精神科リハビリテーションと地域精神保健				
12	精神障害をもつ人の看護【リスクマネジメント】			講義	
13	精神科リハビリテーションの展開			講義	
14	社会復帰病棟でのレクリエーションの企画・運営について			講義	
15	精神科における災害看護、まとめ			講義	
教科書					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学(1) 精神看護の基礎 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学(2) 精神看護の展開					
評価方法・基準					
筆記試験 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。					



<b>授業科目名</b>	<b>精神看護技術</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 20 時間	<b>開講年次</b>	2 年次後期	<b>DP</b>	1・2・3・4・5
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師		
<b>目的</b>	事例展開を通して、発達課題の達成状況や精神障害が生活に及ぼす影響をアセスメントし、生活能力に応じて自立に向けた看護を実践するための技術を習得する。				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達課題の達成状況や精神障害が生活に及ぼす影響をアセスメントし、生活能力に応じて自立に向けた看護を展開する基礎的能力を身につけることができる。</li> <li>2. ケアの基盤となる治療的対人関係について理解できる。</li> <li>3. 看護師自身の知覚・感情・思考を自覚し対象理解を深めるための技術を身につけることができる。</li> </ol>				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>				<b>授業方法</b>
1	精神科看護について				講義
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 精神看護とは</li> <li>• 精神科における看護過程の展開とは</li> </ul>				
2	事例を用いた看護過程の展開（統合失調症の患者）				GW
3	精神科における看護過程の展開 まとめ				講義・GW
4	精神障害をもつ患者との関わり方				講義
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>• コミュニケーション技術</li> <li>• ロールプレイング</li> <li>• プロセスレコード</li> </ul>				ロールプレイ GW
6	プロセスレコードを用いた場面の再構成				GW
7	治療・精神療法をうける患者の看護				講義
8	精神療法を受ける患者の看護（レクリエーションの企画）				GW
9	精神療法を受ける患者の看護（レクリエーションの企画・運営・評価）				発表
10	まとめ				講義
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学(1) 精神看護の基礎 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学(2) 精神看護の展開					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験 70 点、レポート 30 点を合わせて 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。					

【臨地実習】

<b>授業科目名</b>	<b>精神看護学実習</b>				
<b>単位・時間数</b>	2 単位 90 時間	<b>開講年次</b>	3 年次前期	<b>DP</b>	1・2・3・4・5
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師		
<b>目的</b>	精神に障害がある対象を全人的に理解し、治療的関係を形成しながら、対象の自立と社会復帰に向けた看護を実践できる基礎的能力を習得する。				
<b>到達目標</b>	<p>(精神保健福祉施設実習)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障害のある人との関わりを通して、地域で暮らす思いや社会生活について理解を深めることができる。</li> <li>2. 精神障害をもつ人が地域で生活するために必要な支援について理解を深めることができる。</li> <li>3. 倫理的配慮に基づき、自分の行動に責任をもつことができる。</li> </ol> <p>(精神病院実習)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神に障害がある対象の全体像を把握するために、対象の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる</li> <li>2. 精神に障害がある対象と治療的関係を形成しながら意図的に援助が実施できる。</li> <li>3. 倫理的配慮に基づいた看護が実践できる。</li> <li>4. 精神に障害のある人の社会復帰に向けた看護が理解できる。</li> <li>5. 看護実践を通して、精神看護に対する自己の考えを明らかにできる。</li> </ol>				
<b>授業内容</b>				<b>実習場所と時間内訳</b>	
<p>治療的関係を形成しながら、対象の自立と社会復帰に向けた看護を理解するために、精神保健福祉施設実習 4 日間、精神病院実習を 9 日間実施する。</p> <p>(精神保健福祉施設実習)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 就労継続支援を体験しながら、利用者とコミュニケーションを行う。</li> <li>2. 精神保健福祉制度について、職員からオリエンテーションや利用者との関わりを通して理解を深める。</li> </ol> <p>(精神病院実習)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習 1 週目の初日に 1 人の患者を受け持ち、5 日目までに全体像を把握する。</li> <li>2. 実習 2 週目の初日までに看護計画を立案し、治療的関係を形成しながら意図的に対象の自立と社会復帰に向けた援助を実施する。</li> <li>3. プロセスレコードで患者との関わりの一場面を振り返り、患者との相互作用を考える。</li> <li>4. 病棟ケースカンファレンス、外来・在宅医療室・作業療法センター・デイケアセンター・院外実習については各指導者の指示のもと行動する。</li> <li>5. 訪問看護、外来実習などの機会があれば、担当教員・実習指導者と相談して見学実習を行う。</li> </ol>				<p>就労継続支援 B 型施設 24 時間</p> <p>精神科病院 66 時間</p>	
<b>成績評価</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 100 点を満点とし 60 点以上の評点の取得をもって合格とする。</li> <li>2. 実習評価は、平素の実習状況及び内容、提出された諸記録・レポートなど総合して実習評価表に基づき教員及び看護師長・実習指導者の三者合意の評価とする。</li> </ol>				
<b>教科書</b>	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学(1) 精神看護の基礎</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学(2) 精神看護の展開</p>				
<b>履修条件</b>	精神看護学実習に先立っては、「基礎看護学実習Ⅱ」の単位を修得しなければならない。				

<b>授業科目名</b>	<b>看護管理・医療安全</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 30 時間	<b>開講年次</b>	3 年次前期	<b>DP</b>	1・2・3・4
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師・医療安全管理者		
<b>目的</b>	<p>看護管理では、質の高い看護を提供するためのマネジメントの目的や方法を学び、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。また、チーム医療、他職種との協働の中での看護師としての役割を理解する。</p> <p>高度化・複雑化してきている医療を取り巻く環境の中で、安全で質の高い医療・看護を提供するために、医療安全の基礎的知識を学ぶ。また、人間の特性や事故発生の背景を知り、最終的な医療行為者、観察者となる看護者として事故防止の視点からどのような知識・技術が必要かを理解する。</p>				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護管理の概念、マネジメントについて理解することができる。</li> <li>2. チーム医療における看護師の役割について理解することができる。</li> <li>3. 看護における安全性について理解し、事故を防ぐための技術について理解できる。</li> <li>4. 事例を基に看護者としての事故予防対策について理解を深めることができる。</li> </ol>				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>	
1	<b>【看護管理】</b>			10 時間（谷岡）	
2	看護とマネジメント			講義	
3	看護ケアのマネジメントと看護職の機能、看護職のキャリアマネジメント				
4	看護サービスのマネジメント				
5	マネジメントに必要な知識と技術				
6	リーダーシップとマネジメント				
7	まとめ			20 時間（堀）	
8	<b>【医療安全】</b>			講義	
9	医療安全を学ぶことの大切さ・事故防止の考え方				
10	診療補助業務に伴う事故防止（注射業務、医療機器、輸血業務編）				
11	診療補助業務に伴う事故防止（内服・与薬業務編）				
12	診療補助業務に伴う事故防止（チューブ管理編）				
13	療養上の世話における事故防止（転倒・転落事故防止編）			GW	
14	業務領域を超えて共通する間違いと発生 40 要因			GW	
15	KYT（危険予知トレーニング）①			GW	
	KYT（危険予知トレーニング）②			講義	
	医療安全とコミュニケーション				
	組織的な安全管理体制への取り組み				
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践①					
系統看護学講座 統合分野 医療安全					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験は 100 点満点（看護管理 40 点、医療安全 60 点）とし、60 点以上で合格とする。					

<b>授業科目名</b>	<b>看護研究</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 15 時間	<b>開講年次</b>	3 年次前期	<b>DP</b>	1・2・3・5
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師		
<b>目的</b>	<p>看護の専門職者としての責務は、看護実践の専門性を追及し、ケアの質の向上を目指していくことであり、根拠に基づいた有効な看護ケアを追及するためには、研究を通して看護実践の基礎となる科学的知識体系を発展させていく必要がある。</p> <p>ケーススタディを通して根拠に基づいた看護の考察や課題について論述する。そして、看護における課題を発見する能力と専門職業人としての看護を探求する姿勢を養う。また、学生生活を通して培った看護観を発表する場とする。</p>				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護における事象や現象を科学的に追求し、問題を解決できる。</li> <li>2. 研究プロセスを通して、研究的態度を身に着けることができる。</li> <li>3. 看護観をまとめ、発表することができる。</li> </ol>				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>	
1	看護研究とは 看護研究の目的・意義、研究テーマの絞り込み			講義	
2	文献検索とは、研究の種類・方法とは 研究計画書の意義・内容			講義	
3	「なぜどうして」は研究になり得るのか 研究計画書を用いて疑問を考えてみよう			発表	
4	疑問と研究になるのかについての発表・まとめ			講義	
5	研究活動の実際 看護研究活動の流れ、文献検索の仕方			個人ワーク	
6	研究目的・種類と方法				
7	テーマの絞り込み、論文の構成と書き方				
8	倫理的配慮、テーマの絞り込み、研究計画書作成				
	研究計画書について深める				
	計画書作成				
	卒業論文作成				
	個人で文献検索、計画書作成、担当教員との面談				
	看護観とは、書き方				
	卒業論文作成				
	看護観作成				
<b>教科書</b>					
系統看護学講座 別巻 看護研究					
<b>評価方法・基準</b>					
筆記試験 40 点、卒業論文 60 点を合わせて 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。					

<b>授業科目名</b>	<b>多職種連携</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 20 時間	<b>開講年次</b>	3 年次前期	<b>DP</b>	1・2・3・4・5
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師		
<b>目的</b>	<p>看護の対象は社会の変化によって多様化しており、ケアの中心にある人々がそれぞれの QOL を向上できるように多職種が連携することが求められており、人々の健康生活を支えるために多職種と協働することの必要性を学ぶ。また、多職種との関わりを通して他職種の役割・機能の理解を深め、連携について考え、看護師の役割を理解する。</p>				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多職種と連携・協働することの必要性が理解できる。</li> <li>2. 他職種の役割・機能の理解を深め、多職種連携における看護の役割を考えることができる。</li> <li>3. チーム医療の実践に求められるコミュニケーション能力や倫理観を養うことができる。</li> </ol>				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>				<b>授業方法</b>
1	科目ガイダンス チーム医療に必要なコミュニケーション、他職種の役割と機能				講義
2	症例提示におけるアプローチ立案とその考察①				GW
3	症例提示におけるアプローチ立案とその考察①				GW
4	症例提示におけるアプローチ立案とその考察①				GW
5	症例提示におけるアプローチ立案とその考察①				GW
6	IPW①				GW
7	IPW②				GW
8	IPW③				GW
9	IPW④ (IPW①～④は 4 コマ連続)				GW
10	IPW⑤ (プレゼンテーション・リフレクション)				発表
<b>教科書</b>					
講師資料					
<b>評価方法・基準</b>					
レポートを 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。					

授業科目名		災害・国際看護			
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	3 年次前期	DP	1・2・3・4
担当講師					
実務経験の有無	有	実務経験内容	看護師		
目的	<p>災害の頻度や規模が拡大している近年の状況をふまえ、看護職者は人々の健康に関わる看護の専門職として役割を果たしていくことが求められている。そこで、災害時に適切な看護ケアを提供するために必要となる災害医療・看護の基礎的知識を学ぶ。また、社会の変化とともに医療活動の場が拡大している中で、プライマリーヘルスケアの理念のもと、グローバルな視点に立ち文化、社会経済、政治、教育などの現状を視野に入れ、生活や価値観へのより深い理解にたった看護のアプローチをすることが求められている。そこで、多様な文化・価値観による保健医療、健康、看護の格差について理解し、国際社会における医療・健康に関する問題と看護の国際協力における基礎的なシステムを理解する。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害を健康・医療・看護の視点から学び、災害サイクル各期の特徴および看護を理解できる。</li> <li>2. 災害時の看護の役割を理解し、看護ケアについて考え、災害直後から支援できる看護の基礎的知識・技術について理解できる。</li> <li>3. 国際看護学の概念を学び、多様な文化・価値観による保健医療、健康、看護の格差について理解できる。</li> <li>4. 国際社会における医療・健康に関する問題と看護の国際協力における基礎的なシステムを理解できる。</li> </ol>				
回数	授業内容			授業方法	
1	【災害看護】 災害看護の歴史，現状			20 時間 講義	
2	災害医療に関する基礎知識			講義	
3	災害各期の看護：災害各期の看護ニーズ			講義	
4・5	災害各期の看護：急性期			講義・演習	
6	災害各期の看護：慢性期・復興期			講義・演習	
7	災害各期の看護：静穏期			講義・演習	
8	災害各期における要援護者への看護			講義・演習	
9	災害看護の今後の課題・ケア			講義・演習	
10	災害看護の実際			講義・演習	
11	【国際看護】 国際看護学とは・グローバルヘルス			10 時間 講義	
12	国際協力の仕組み・文化を考慮した看護			講義	
13	開発協力と看護			講義	
14	国際救援と看護			講義	
15	まとめ			講義	
教科書					
系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学					
評価方法・基準					
筆記試験は 100 点満点（災害看護 50 点、国際看護 50 点）とし、60 点以上で合格とする。					

<b>授業科目名</b>	<b>看護技術統合演習 I</b>				
<b>単位・時間数</b>	1 単位 20 時間	<b>開講年次</b>	2 年次後期	<b>DP</b>	1・2・3・4・5
<b>担当講師</b>					
<b>実務経験の有無</b>	有	<b>実務経験内容</b>	看護師		
<b>目的</b>	<p>臨地で個別性に応じた安全な看護を実践するためには、学内で習得した知識・技術・態度の統合をはかること、基本的な看護技術を確実に習得していることが必要である。そのため演習を通して、段階的に知識・技術・態度を統合した看護実践能力を習得する。</p>				
<b>到達目標</b>	<p>対象に応じて基本とする看護技術を組み合わせて一連のまとまりのある看護が実施できる基礎的能力を身につけることができる。</p>				
<b>回数</b>	<b>授業内容</b>			<b>授業方法</b>	
1	科目ガイダンス			講義	
	事例の患者のアセスメントと看護問題の立案			GW	
2	事例の患者のアセスメントと看護問題の立案			講義・GW	
3	事例の患者に対する看護計画の立案			GW	
4	事例に基づく疾患・観察項目・観察技術について（グループ毎に観察する）			演習	
5	事例の患者に応じた観察・援助（コミュニケーションも含む）技術（急性期）			演習	
6	事例の患者に対する看護計画の追加と修正			GW	
7	事例の患者に応じた観察・援助（コミュニケーションも含む）技術（回復期）①			演習	
8	事例の患者に応じた観察・援助（コミュニケーションも含む）技術（回復期）②			演習	
9	事例の患者に対する看護計画の追加と修正			GW	
10	まとめ			講義	
<b>教科書</b>					
講師資料					
<b>評価方法・基準</b>					
実技試験 80 点、レポート 20 点を合わせて 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。					

授業科目名	看護技術統合演習Ⅱ				
単位・時間数	1 単位 15 時間	開講年次	3 年次後期	DP	1・2・3・4・5
担当講師					
実務経験の有無	有	実務経験内容	看護師		
目的	<p>臨地で個別性に応じた安全な看護を実践するためには、卒業の時点で看護職として基本的な看護技術を確実に習得していることが必要である。そのため看護技術の到達度を明確にするために総合的な評価を行い、卒業時に求められる看護実践能力を習得する。</p>				
到達目標	<p>基礎分野、専門基礎分野、専門分野で習得した知識、技術、態度を統合し看護が実践できる基礎的能力を身につけることができる。</p>				
回数	授業内容			授業方法	
1	<p>科目ガイダンス（専門職業人である看護師として、組織の中で働く一員であることを自覚するために、自分の働く病院を理解（病院の理念・基本方針・看護部の理念・基本方針など）し、看護観を再構築する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 科目位置づけ・概要・目的・目標、学習スケジュール・進め方</li> <li>▪ 模擬病院紹介、模擬病院で働く上で看護観をもとに看護師としての目標の明確にする</li> </ul>			<p>講義 個人ワーク後、 GW</p>	
2	<p>模擬病棟での複数受け持ち患者の事例展開 複数患者受け持ち時の1日の看護計画立案</p>			<p>講義・GW 発表</p>	
3	<p>起こりうる問題と対処方法についての検討</p>			<p>個人ワーク・GW</p>	
4	<p>患者に応じた観察・援助（コミュニケーションも含む）技術の習得</p>			<p>個人ワーク・GW</p>	
5	<p>事例をもとにした演習</p>			<p>演習</p>	
6	<p>事例をもとにした演習</p>				
7	<p>夜間勤務者への報告内容の検討・報告の実際</p>			<p>GW</p>	
8	<p>まとめ</p>			<p>講義</p>	
<p>教科書 講師資料</p>					
<p>評価方法・基準 実技試験 90 点、レポート 10 点を合わせて 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。</p>					



【臨地実習】

授業科目名	看護統合実習				
単位・時間数	2単位 90時間	開講年次	3年時後期	DP	1・2・3・4・5
担当講師					
実務経験の有無	有	実務経験内容	看護師・医療ソーシャルワーカー・精神保健福祉士		
目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実務に即した実習を行うことで、状況・状態を適切に判断し、対象に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。</li> <li>2. 看護管理の実際を学び、基礎的なマネジメント能力を養う。</li> </ol>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護管理の実際が理解できる</li> <li>2. 複数患者の状況・状態に応じた看護が実践できる</li> <li>3. 患者の24時間の生活を知り、看護の役割を理解できる</li> <li>4. 医療チームの一員であることを自覚し、自らの判断・行動に対する責任感を養うことができる</li> <li>5. 実践を通して看護観を養い、自己の目標や課題を明確にできる</li> </ol>				
授業内容				実習場所と時間内訳	
<p>【実習1週目の1～4日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 管理実習 実習1週目の4日間の中の1日は、病棟管理業務の実際を学ぶために、病棟看護師長と行動を共にする。</li> <li>2. 医療チーム実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 入退院支援実習 入退院支援の実際を学ぶために、実習1週目の4日間の中の1日は、医療福祉相談室のスタッフと行動を共にする。</li> <li>2) メンバー実習 チームの連携・協働における看護師の役割を学ぶために、実習1週目の4日間の中の2日間は、病棟でメンバーと共に行動し、指導・助言の下で援助を一部実施または見学する。</li> </ol> </li> </ol> <p>【実習1週目の5日目以降】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 複数患者担当実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 複数患者の状況・状態に応じた看護を実践するために、実習5日目から1人の看護師が担当する患者のうち、2～3名程度を学生が担当する。</li> <li>2) 担当する複数の患者の状況・状態をとらえ、優先度の判断や時間管理の根拠を、主体的に考えながら立案する。指導者・担当看護師と相談しながら看護を実施もしくは見学する。</li> </ol> </li> <li>4. 夜間実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 夜間帯の看護の実際と看護師の役割を理解するために、2週目に夜間実習を1日行う。</li> <li>2) 患者の様子を観察し、夜間の患者の特徴やニーズを考える。</li> </ol> </li> </ol>				<p>大阪病院 日勤帯実習 77.5時間</p> <p>夜勤帯実習 12.5時間</p>	
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 100点を満点とし60点以上の評点の取得をもって合格とする。</li> <li>2. 実習評価は、平素の実習状況及び内容、提出された諸記録・レポートなど総合して実習評価表に基づき教員及び看護師長・実習指導者の三者合意の評価とする。</li> </ol>				
教科書	系統看護学講座 統合分野 看護管理				
履修条件	履修に先立っては、専門領域実習において14単位以上を習得している必要がある。				